助成 日本財団
The Nippon Foundation

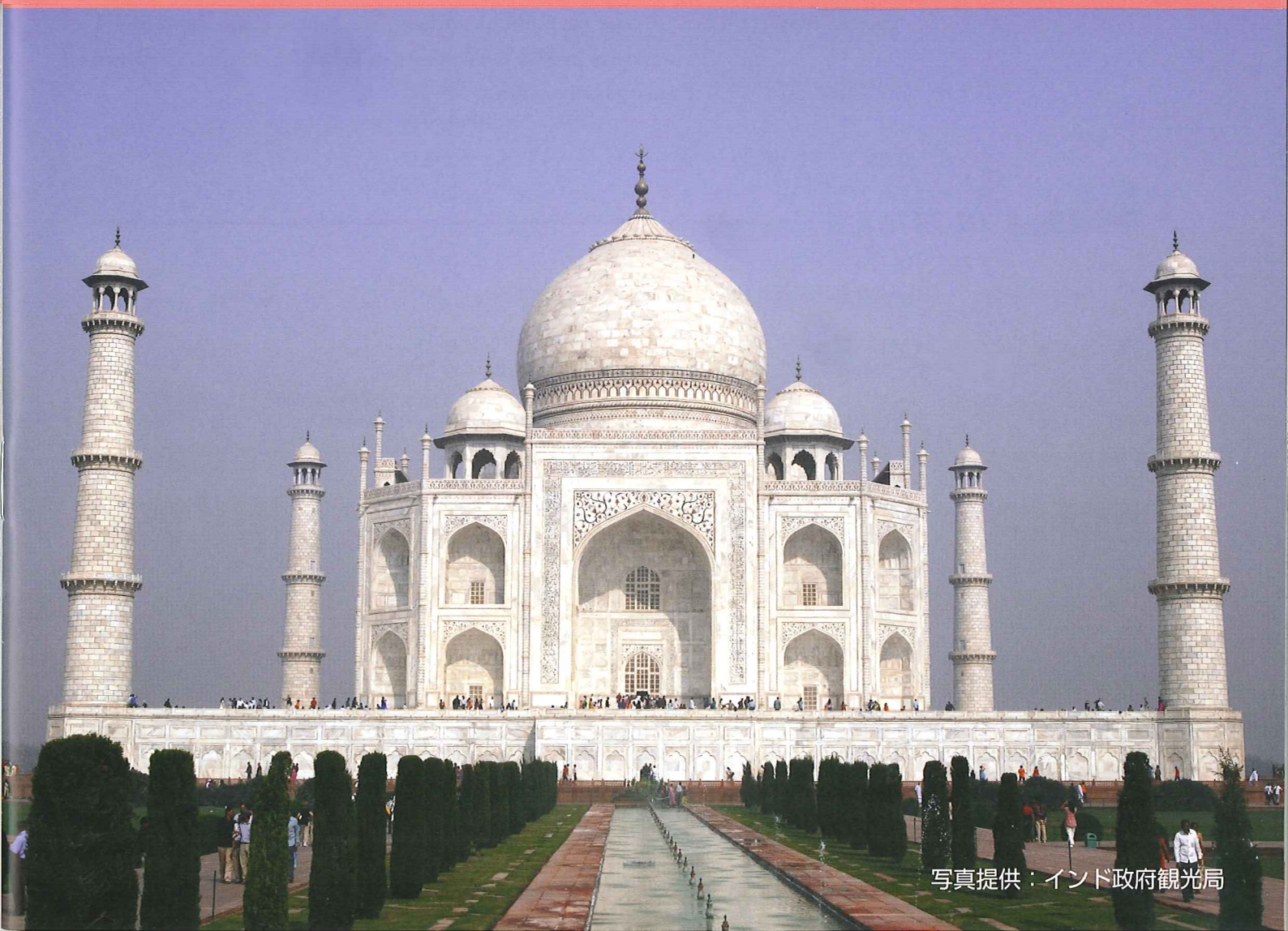
UNWTO-JAPANESE SYMPOSIUM ON ENCOURAGING TOURISM EXCHANGE IN INDIA

REPORT

22nd JUNE 2010 NEW DELHI, INDIA

日本－インド観光交流促進シンポジウム

報告書



写真提供：インド政府観光局

開催趣旨 ● *OBJECTIVE*

南アジアの大国インドは、近年飛躍的な経済発展を遂げており、観光資源も豊富で、日本経済界・観光業界にとって、現在最も注目されている国です。日本－インド間の観光交流は、近年双方向とも順調に伸びていることから、適切なガイドラインの提示と双方の観光業界・観光関係者の努力によって、今後更に発展する可能性があると思われます。

そこで、上記の状況を踏まえ、現地ニューデリーにおいて、シンポジウムおよび観光業界関係者対象のワークショップを行うことにより、今後の両国間の観光交流促進に資することを目的といたします。

India, a huge country in the south of Asia with abundant tourism resources, has been showing a surprising economic growth in the recent years, and has become one of the most hopeful countries for the Japanese economy and tourism industry. As tourism exchange between Japan and India has been smoothly expanding on both sides in the last few years, we can see potential of further growth with appropriate guidelines and efforts by stakeholders in the tourism industry and related organizations in both countries.

Under such circumstances, we held a symposium and a workshop in New Delhi aiming at promoting Tourism Exchange among both countries.

開催概要 ● *OUTLINE*

開 催 日　Date	2010年2月22日（月）　Monday, June 22,2010
会　　場　Venue	インド・ニューデリー　アショカホテル　バンケットホール The Ashok Hotel, Banquet Hall, New Delhi, India
主　　催 Organized by	世界観光機関（UNWTO）　World Tourism Organization (UNWTO) 日本国観光庁　Japan Tourism Agency (JTA) インド観光省　Ministry of Tourism, India 財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC） Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)
協　　力 With the cooperation of	社団法人日本旅行業協会（JATA）　Japan Association of Travel Agents (JATA) 日本財団　The Nippon Foundation
後　　援 Under the Auspices of	在インド日本大使館　The Embassy of Japan in India
参 加 者 Participants	150名（日本側50名、インド側100名） 150 participants (50 from Japan, 100 from India)

09:30-10:00　登録受付

10:00-10:40　開 会 式（ランプ点灯による開会）

主催者挨拶	デベシュ チャトルベディ	インド観光省　局長
	スジット バネルジー	インド観光省　事務次官
	田　端　　浩	観光庁　観光地域振興部長
	本　田　勇一郎	世界観光機関　アジア太平洋センター　代表
		アジア太平洋観光交流センター　理事長
来賓挨拶	水　上　正　史	在インド日本大使館　次席公使
答　　礼	柴　田　耕　介	日本旅行業協会　理事長

---10:40-11:10　ティブレーク・記念撮影---

11:10-11:40　インド側　基調講演

アトール ライ	インドツアーオペレーター協会 名誉総合局長
ナレシュ シャルマ	インドツアーオペレーター協会 幹部会員

11:40-12:10　講演　「インクレディブル　インディア」

デベシュ チャトルベディ	インド観光省　局長

12:10-12:40　日 本 側　基調講演

柴　田　耕　介	日本旅行業協会　理事長

---12:40-14:00　昼食---

14:00-16:50　観光ワークショップ

開会挨拶	アトール ライ	インドツアーオペレーター協会 名誉総合局長
	佐々木　　隆	日本旅行業協会　副会長
日本側講演　「インドの観光促進」		
	佐　藤　　勉	日本インド観光促進委員会　前委員長
インド側各州、観光業界講演		
	ラシュミ ヴァルマ	ビハール州　観光主席次官
	ジャエシュ ランジャン	アンドラ　プラデシュ州　観光次官
	ナリン シンハル	インド鉄道ケータリング・観光会社　取締役
	タンベール ジェーハン	ジャム・カシミール州　観光次官
	パダムジェート シン サンデュー	インドプロゴルフ協会取締役
ワークショップのまとめ、Q＆A		
	デベシュ チャトルベディ	インド観光省　局長

16:50-17:30　観光業界意見交換会

---19:30-22:00　歓迎レセプション---

09:30-10:00 Registration

10:00-10:40 Inauguration of the Symposium by lighting of lamp

Organizers' Addresses

Mr. Devesh Chaturvedi	Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India
Mr. Sujit Banerjee	Secretary, Ministry of Tourism, Government of India
Mr. Hiroshi Tabata	Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA)
Mr. Yuichiro Honda	Chief, UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific & President Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

Guest Address

H.E. Masashi Mizukami	Minister Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India

Vote of Thanks

Mr. Kosuke Shibata	President, Japan Association of Travel Agents (JATA)

--- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---10:40-11:10 Tea Break and Photo Op.--- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---

11:10-12:10 Key Note Address and Presentations, India Side

Mr. Atul Rai	Honorary Joint Secretary, Indian Association of Tour Operators (IATO)
Mr. Naresh Sharma	Executive Committee Member of IATO
Mr. Devesh Chaturvedi	Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

Presentation on various efforts that are being undertaken by the Ministry to promote India in overseas Market

12:10-12:40 Key Note Presentation, Japan Side

Mr. Kosuke Shibata	President, JATA

--- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---12:40-14:00 Lunch --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---

14:00-14:15 Workshop for Travel Industry, Presided over by JATA and IATO

Exchange of Pleasantries

Mr. Atul Rai	Honorary Joint Secretary of IATO
Mr. Takashi Sasaki	Vice Chairman of JATA

14:15-16:50 Japanese Presentation "Travel Promotion between India and Japan"

Mr. Tsutomu Sato	Ex-Chairman of Japan India Tourism Promotion Committee (JITC)

Presentations on Indian Tourism Product

Ms. Rashmi Verma	Principal Secretary, Tourism, Government of Bihar
Mr. Jayesh Ranjan	Secretary – Tourism, Government of Andhra Pradesh
Dr. Nalin Singhal	Director, Indian Railways Catering and Tourism Corporation (IRCTC)
Ms. Tanveer Jehan	Secretary Tourism, Government of Jammu & Kashmir
Mr. Padamjeet Singh Sandhu	Director, Professional Golf Tour of India, New Delhi

Summing up of Workshop and Q&A

Mr. Devesh Chaturvedi, Additional Director General (Tourism), Ministry of Tourism, Government of India

16:50-17:30 Business Networking Session

--- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---19:30-22:00 Welcome Reception --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • --- • ---

主催者挨拶 ● *OPENING ADDRESS BY ORGANIZERS*

デベシュ　チャトルベディ　　Mr. Devesh Chaturvedi
インド観光省　局長
Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

本日、このような重要なシンポジウムとワークショップにおいて、日本からの参加者の方々をお迎えでき、またインドサイドの参加もいただき、誠に光栄の至りです。私達はこの日を長い間待ち望んでおりました。このイベントの開催を可能にしていただいた日本からの参加者の皆様、またUNWTOの皆様、心から感謝、またお祝い申し上げます。

さて、今やインドも世界も物事は前向きな方向に向かいつつあり、私共インドはこの時期に日本を含む５カ国に対し、到着ビザを導入することに致しました。

インドにはアグラ、デリー、ジャイプールという黄金の三大観光地だけではなく、もっとより多くのお見せしたいものがあるのです。インド南部、インド西部、インド東部そしてさまざまな産物もお見せできるのです。さらには世界遺産、健康促進分野、太陽と砂、もしくは医療まで。その全てが私たちにとってはとても重要な日本の市場に印象を残すことができるのです。日本は観光関連の分野では我が国にとっては上位10カ国に入る国なのです。我々は今後もとても良い交流を続けて行くことになるでしょう。歴史的にも文化的にも古くから繋がりのあったこの２国間の観光交流を話し合うために、時間を割いてお集まりになって下さった全ての方々に、心から感謝致します。

Honorable Secretary of Tourism.
Honorable Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India,
Honorable Directorate General of JTA.
Honorable Chief of UNWTO Osaka and the President of Japan Association of Travel Agents.

It is indeed a privilege and pleasure to welcome the Japanese delegation to India and to welcome the Indian counterpart in this very important symposium and workshop. We have been waiting for this for a long time. I indeed thank and congratulate the Japanese delegation and the UNWTO for having made this event possible. Things are looking very positive in India and in the world, and also at a time when we have introduced an arrival visa for five countries, which include Japan.

India offers not just the golden triangle, which is Agra, Delhi, Jaipur but much more than that. And today, our esteemed gathering will have a good nuance of what India has to offer. Be it in the southern part of the country, be it in the western, or the eastern part of the country, and also in terms of various products. Be it Heritage, be it wellness, be it sun and sand, or be it to buy life. All what impressed the Japanese market, which is a very important market for us. Japan is one of the top 10 markets for India in terms of 'involved tourism'. We will be having a very good exchange and I indeed thank again all of you and all the distinguished gathering on stage for having spared some time to discuss tourism exchange between our two countries which have had historical and cultural linkages for a very long time. Thank you very much.

主催者挨拶 ● OPENING ADDRESS BY ORGANIZERS

スジット バネルジー　　Mr. Sujit Banerjee

インド観光省　事務次官

Secretary, Ministry of Tourism, Government of India

UNWTO主催の「日本－インド観光交流促進シンポジウム」に参加させていただき、大きな喜びを感じております。まず、最初に日本からの友人を歓迎させていただきます。皆様方全てにこの「インクレディブル・インディア」を楽しんでいただきたいと願っております。今日のイベントの目的はインドと日本が戦略的に世界レベルのパートナーシップを高める事です。インドも日本も古くから文明を持ち、宗教的、知的、そして文化的な交流の歴史を分かち合っています。

我々両国は互いが重要なパートナーとして、民主主義、法の遵守、司法の独立と言論の自由の原理原則の下、アジアにおける平和と繁栄の強化を望んでいます。

仏教はインドが発祥の地ですが、今では日本で何百万人もの人々に受け入れられていますし、我々両国には家族に対する価値観、年配の方々への敬意、伝統的な芸術に対する愛情などで類似点があります。このような事を考えれば、両国の友好関係は、我々２国だけでなく、世界中で平和、友好、善意や理解を促進するものとなるでしょう。インド日本間関係が本当の可能性を発揮するための変貌努力は、両国の首相の長年に渡るビジョンでもありました。現在では両国間での協働作業を通して人と人との交流がさらに進んでいます。

私が実に喜ばしいと思っていることは、日本からの観光客の数が着実に増えていることです。2008年度の日本からの観光客の総数は15万人でした。そして2009年度の総数はまだ数字としては出ておりませんが、間違いなく増加しております。すなわち、日本はインド来訪という点においてはトップ10カ国に入るわけです。世界的に見ても、ますます相互依存度は増しており、特に近年は観光がさまざまな国々の協力関係や相互理解を促進するカギとなってきました。

そのため、インドへの来訪者を増やすために現在、数多くの宣伝活動を行っています。インド政府とメディアは「インクレディブル・インディア」の認知度を高めるための世界レベルでの広報活動を始めました。我々が取り組んでいるもう一つの活動は、「Visit India 2009計画」の下で、旅行の同行者に、参加している航空会社から割引券を、ホテルから一晩の優待券を提供してもらうというものがありますが、その中にはアーユルベーダやヨガといった健康促進のためのパッケージも含まれます。この計画は世界市場では人気が出たため、2010年の３月まで延長されることになりました。インド政府と民間の関係団体のたゆまぬ努力の結果、インドの観光は既に景気後退からの回復の兆しを見せております。

皆さん、チャトルベティ局長が発表しましたように、インド政府は試験的に５カ国に対し１年間、2010年の１月より到着ビザを導入致しました。このビザは日本、フィンランド、ルクセンブルグ、ニュージーランド、とシンガポールに対してのもので、厳密に観光目的の来訪者に限られます。このビザの導入によりインドは外国人観光客の誘致に積極的であるという姿勢を見せています。そして我が国の治安に自信も感じていただきたいです。これに加えてインド政府は18カ国に長期滞在も認めています。

インドは大きな国で多様な文化と伝統があります。我々の古代の文化や遺跡は大きな強みですが、我々には他にも数多くの新しい観光の目玉があるのです。

それらには医療・健康関連観光、そして田舎の生活や文化を紹介する田舎観光、ヒマラヤ山脈の活動を盛り込んだ冒険ツアーなどもあり、それにはトレッキング、ロッククライミング、パラグライディング、ラフティングなどがあります。

インフラの整備といたしまして、我々はMICE（会議や展示会など）のツアーの促進も絶えず行っています。我が国には世界的規模のコンベンションセンターを作る数多くの計画があるのです。また、インド国内の山間部や人里離れた地を観光地化するために、インド観光省はヘリポートの建設のための資金助成を拡大するガイドラインも発行しました。さらには大型空港の近代化が進行中でして、現在のデリー空港とムンバイ空港は民間運営となります。加えて新たな国際空港が国と民間の合弁事業としてベンガロールとハイドロバードで建設中です。

さらには特に観光のピーク時に対応できるように、主要都市や主要観光地のホテル宿泊総数の増強も図っています。そのような中には観光客の方々がインドの慣習や伝統を経験できるようにインドの一般家庭に宿泊してもらうという計画もあります。

2010年10月３日から14日の期間には、デリーで第19回コモンウェルス競技大会の開催が開催される予定で、その期間には10万人がデリーを訪れると予測されます。インド観光省はこれを機会にインフラの整備、デリーにおける宿泊施設の増強、人材開発、自発的な宣伝活動を促進しています。

これら全ての努力をもって、今やインドは世界でもトップレベルの観光目的地になろうとしているのです。ですから、日本の皆さんにもっとインドの事を知ってもらえるように、またこの２国間での交流と理解がより進み、より良い協力関係が結べますように、私は皆様にさらなる協力をお願いしたいのです。

今日の会議、そして明日のアグラへの旅行が、皆様にとってとても有意義なものとなり、インド滞在を是非楽しんでいただきたいと願っております。

ありがとうございました。

Mr. Masashi Mizukami, Minister, Mr. Tabata Hiroshi of JTA, Mr. Yuichiro Honda, Mr. Chaturvedi – other members from the Japanese delegation, members of the India Travel Trade friends, and press.

It gives me immense pleasure to be part of this UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India. At the outset, let me welcome our friends from Japan. I hope you all will enjoy your stay in 'Incredible India'. Today's event bears testimony to our commitment to the advancement of the strategic and global partnership between India and Japan. India and Japan are ancient civilizations, and we have shared a long history of religious, intellectual and cultural interactions. As important partners in Asia, our countries aspire for strengthening peace and prosperity in the region through a shared commitment to the principals of democracy, rule of law, independent judiciary, and free press.

Buddhism, which originated in India, was received by millions in Japan. We have similar family values, respect for elders and love for traditional arts. In this context, friendship between our two countries will help to promote peace, friendship, goodwill and understanding not only between our countries, but also the world as a whole. The transformation of India-Japan relations to realize their true potential, has long been the vision of our prime ministers. People to people exchanges have been further enhanced through joint collaboration.

I am indeed happy that tourist arrivals from Japan is increasing steadily. India received a total of over 150,000 tourists from Japan in 2008. And that number will definitely have gone up in 2009 whose figures are still being computed. Japan is one of the top ten for India. In a world that is becoming increasingly inter-independent with each passing year, tourism over the last few years has emerged as one of the key areas for enhanced cooperation and mutual understanding amongst different nations.

A number of promotional initiatives have been taken for promoting India as a tourist destination. Indian government and media have launched world-wide advertising campaigns for greater awareness and visibility of 'Incredible India'. Another initiative taken by us is the "Visit India 2009" year scheme under which participating airlines and hotels are providing incentives to tourists by way of one complementary air passage for a traveling companion and one night complementary stay in the hotel booked by the tourist including wellness packages offering Aayurvedic treatment, yoga and so on. Due to its popularity among overseas markets, the scheme has been extended till March of 2010. As a result of these sustained efforts by the government and the private stakeholders, tourism in India has already started showing all signs of recovery from economic slowdown.

Friends, I'm happy to inform you that with effect from January 2010, as Mr. Devesh Chaturvedi – Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India, announced, the government of India has introduced a visa on arrival scheme on a pilot basis for a period of one year for 5 countries. The visa on arrival scheme is valid for the citizens of Japan, Finland, Luxembourg, New Zealand and Singapore planning to visit India strictly for the purpose of tourism. Introduction of the scheme has already sent a positive message about the intention of India to welcome foreign tourists. It also signals a sense of self-confidence in the security systems of the country. In addition, 18 countries have been granted the facility of long-term visa by India.

India is a vast country with varied cultures and traditions. Our ancient culture and heritage are the biggest strength in tourism, but we have diversified tourism products now, such as wellness, medical tourism, and a rural tourism scheme, which showcases rural life and culture. We have adventure tourism related to activities in the Himalayan ranges, including Trekking, Rock Climbing, Paragliding and River Rafting.

As for the development of infrastructure, we are in a continuous process of upgrading our MICE (meeting, incentives, conferences and exhibitions) tourism as well. There are multiple plans to develop world-class convention centers in the country. With the view to promoting tourist destinations in hilly and remote areas in the country, the ministry of tourism has issued guidelines to extend financial assistance for construction of heliports. Modernization of major airports in the country has been undertaken and Delhi and Mumbai airports have been handed over to private companies. Two new international airports at Bangalore and Hyderabad have been developed through public-private sector partnerships.

Measures are being initiated to augment hotel accommodation in major metro and tourist destinations to meet the requirement of additional room capacity, particularly during the peak season. A bed and breakfast scheme has been launched which would give tourists the opportunity to stay with an Indian family and experience Indian customs and traditions. The 19th commonwealth games are scheduled to be held in Delhi from the 3rd to the 14th of October, 2010. It is expected that 100,000 visitors would be visiting Delhi during the games. The ministry of Tourism has taken several initiatives in regard to the development of infrastructure, augmenting room capacity in Delhi, development of manpower, and volunteer promotion and publicity to use this opportunity.

With all these efforts, India is well on its way to establishing itself as one of the leading tourist destinations. I therefore seek your support in creating awareness about India in your country so that we can enjoy and jointly serve a larger cause of creating brotherhood and mutual understanding amongst nations. I hope the conference today and your trips to Agra would be very beneficial and you'll have a very pleasant stay in India. Thank you.

主催者挨拶 ● *OPENING ADDRESS BY ORGANIZERS*

田　端　　浩　　Mr. Hiroshi Tabata

観光庁　観光地域振興部長

Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA)

只今御紹介頂きました、日本国観光庁観光地域振興部長の田端でございます。尊敬するインド観光省スジット・バネルジー次官閣下、デベシュ・チャトルベティ局長、そしてインド旅行業協会ビジェイ・タクール理事長はじめインド側関係者の皆様方、御後援頂きました在インド日本国大使館水上（みずかみ）次席公使閣下、日本旅行業協会佐々木副会長、また関西国際空港はじめ日本側関係者の方々にもご参加いただき、本日ここに「日本－インド観光交流促進シンポジウム」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

国連の専門機関である世界観光機関（UNWTO）は、国連ミレニアム開発目標の達成に向けて、観光開発を通じた貧困の削減「ST-EP」プロジェクトを推進しております。世界観光機関の唯一の地域事務所であるアジア太平洋センターを持つ我が国は、これに賛同し、観光開発により大きな効果が期待できる国・地域において、日本人を中心とした当該諸国への旅行者の増加を図るためのシンポジウムを、開催国政府と共催で実施してきております。今回のシンポジウムは、その一環として開催の運びとなったものであります。

インドは、アジアにおける大国として、日本とともにアジアの繁栄を今後担っていく役割を有しています。このため、昨年末の鳩山総理インド訪問時の日印首脳会談において、「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」を新段階に発展させることが確認されました。

その際、鳩山総理からは「人的交流等を通じ若者の間での信頼関係を強化していくことは、両国関係の発展に大きく寄与する」との考えを伝えております。今回のシンポジウムは、両国間の一層の人的交流の拡大に向けて両国当事者間で検討を深める上で大変に時宜を得たものであると考えております。

また、インドと日本国国土交通省とは、都市鉄道や高速鉄道、或いは貨物専用鉄道などのプロジェクトにおいて、日本の政府開発援助（ODA）を通じた協力関係が既に確立されております。

更に、観光庁と同様に国土交通省に属する海上保安庁とインドとの協力関係も進んでおります。本年１月には鈴木海上保安庁長官がインドを訪問し、両国の海上保安協力を確認したところであります。観光庁としても、こうしたインドにおける社会インフラの整備や輸送の安全確保が、今後の観光交流の促進にも大いに役立つものと考えております。

インドは世界遺産をはじめ数多くの質の高い歴史的遺産や大自然を有しており、観光デスティネーションとして多彩で、すばらしい魅力がありますが、日本人にまだまだ充分には知られていないのが現状です。そこで、今回のシンポジウムを通じて、インドを更に日本人にとっても訪れやすい場とするための努力、成果が生まれていくことを強く期待しております。

現在、インドを訪問する日本人は、150,732人（2008年）ですが、これを更に増やしていく、特に若者が海外に訪問しに行く、このようなアウトバウンド振興をどんどんはかって、今後の日印間の信頼関係を確立していきたいと思っていますので、本日のシンポジウムの成果を期待しております。また鳩山政権におきましては、観光を日本の新成長戦略の大きな柱として位置付け、ビジットジャパンキャンペーンを強化していく方針があり、新たな目標設定で意欲的な取り組みをしていこうとしているところであります。その中で2010年度からインドを重点市場に格上げし、本格的な訪日プロモーションを展開していくことを考えております。日本とインドの相互の観光交流が大いに拡大するよう両国で努力していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回のシンポジウムの開催に御協力を頂きましたインド側関係者の皆様方に心から御礼を申し上げ、私の御挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

I am Mr. Tabata, – Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA).

Today we are joined by Respectable Mr. Sujit Banerjee – Secretary , Ministry of Tourism, Government of India, Mr. Devesh Chaturvedi – Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India, Mr. Vijay Thakur, President of Indian Association Tourism Operators, and other Indian side people, Also Mr.Masashi MizukamiI – Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India, Mr. Takashi Sasaki, Vice chairman of JATA and many other Japan side people including members from Kansai International Airport.

I would like to congratulate everyone here on holding this "UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India".

UNWTO, the specialized agency of the United Nations is aiming at achieving the goal of the U.N. millennium development program and we are promoting a poverty reduction project "ST-EP" through tourism development.

UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific (Osaka Office) is the only regional office of the UNWTO. Our country, Japan, supports this organization's activities, and in countries and regions in which big benefits can be expected through tourism development, have repeatedly held symposiums to increase the number of tourists to the country with its government. This symposium is one of those activities.

India is a huge country in Asia and has a role of bringing about prosperity in Asia along with Japan for the future. In the end of last year, when our Prime Minister Hatoyama visited India in the summit meeting "The Japan-India strategic global partnership" was confirmed to be promoted to a new stage.

At that time, Mr. Hatoyama said, "strengthening a relationship of trust through human exchange among young people will largely contribute to the prosperity of both our countries." The symposium this time is for further expansion of human exchange between both countries, and in order to deepen the discussion between both our countries, it is very timely.

Also, between India and the Japanese Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, in various projects such as city railroads, high speed train systems and freight trains, sound cooperative relationships have been established through ODA.

In addition to the Tourism Agency, the Japan Coast Guard which belongs to the same Ministry has been proceeding with good relations in India. In January 2010, Mr. Suzuki, Commandant of the Japan Coast Guard, visited India and confirmed the cooperation of both countries in Coast Guard activities. For us, the Tourism Agency, these kinds of developments in social infrastructure and security of transportation will be very helpful to promote tourism exchange in the future.

Not to mention the world heritage sites, India has a lot of quality historical assets and wonderful nature. As a tourism destination, it's very diversified and attractive. However, Japanese people don't really know about such qualities. Therefore, in taking advantage of today's symposium, we would like to make India a much easier country to visit through the efforts generated among us. I strongly expect such developments to continue in the future.

As of 2008, the total number of Japanese who visited India was 150,732. We would like to increase this number, especially we'd like young people to visit foreign counties more so that we can establish a relationship of mutual trust between India and Japan by promoting outbound travel. Therefore, I highly expect positive results of today's symposium.

Our Hatoyama administration positioned tourism as one of the major pillars for the new future economic growth strategy of Japan, along with the policy of strengthening "Visit Japan Campaign", and they are ready to work more actively with newly defined goals. One of those goals is a full-fledged promotion for increasing visitors to Japan by raising the Indian status as one of the most important markets from 2010. We are determined to make every effort so that mutual tourism exchanges between India and Japan will dramatically expand in the future.

Lastly, to all the Indian people who kindly cooperated in holding this symposium, I would like to extend my sincere gratitude and I'd like to now conclude my greeting. Thank you.

主催者挨拶 ● *OPENING ADDRESS BY ORGANIZERS*

本　田　勇一郎　　Mr. Yuichiro Honda
世界観光機関　アジア太平洋センター　代表
アジア太平洋観光交流センター　理事長
Chief, UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific
President Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

尊敬するインド観光省　スジット・バネルジー氏次官閣下、尊敬するデベシュ・チャトルベディ様を始めとするインド政府、観光省、インド側関係者の皆様、日本国観光庁　田端地域振興部長様、ご後援をいただきました在インド日本国大使館様水上公使様、日本からご参加いただきました日本旅行業協会の柴田理事長、佐々木副会長をはじめとした観光関係の皆様方、そして関西経済界の皆様、並びにJR西日本各社の皆様方の多大なご協力、ご支援を賜り、本日ここに日本・インド観光交流促進シンポジウムを開催いたしますことは、主催者の一員として喜びに堪えません。私は、世界観光機関アジア・太平洋センター代表、アジア太平洋観光交流センター理事長の本田　勇一郎でございます。

私ども世界観光機関（UNWTO）は世界154カ国が加盟する国連の専門機関であり、国連ミレニアム開発目標の一つである「貧困の軽減」を、持続的な観光開発（サスティナブル・ツーリズム）によって達成しようという取り組みに力を入れております。

そして、このアジア太平洋センターは世界観光機関の唯一の地域事務所として大阪に設置されており、このUNWTOセンターの支援組織であるアジア太平洋観光交流センター（APTEC）とともに、アジア太平洋地域における国際観光交流の促進を通じて、国家間の相互理解の増進と、地域の安定を図る役割を担っております。

さて、日本とインドの観光交流、振興を図ろうとする本シンポジウムは、皆様、ご存じのように昨年、2009年１月に実施予定でしたが、2008年に発生した世界金融不況などの影響などで延期されていたものです。この度、特にインド国政府のご尽力により開催に至った次第でございます。

南アジア随一の大国インドと日本国間の相互訪問客についてみますと、日本人のインド訪問者数は、UNWTO統計によりますと、2007年に14万5,000人で、インドにとって日本からの観光客到着数は、アジア太平洋地域では第３位です。一方、インド人の日本訪問者数は、2007年67,500人で、日本にとってインドは、アジア太平洋地域で第８位の送出国となっています。

日本・インド間の観光交流は、近年双方向とも順調に伸びていますが、両国の観光における潜在力はこの数字よりはるかに大きいものと考えられます。

今後、適切なガイドラインの提示と双方の観光業界・観光関係者の努力によって、更に大きく発展すると期待しております。

このため、本日のシンポジウムでは、日本の旅行業界をリードする主要旅行会社全ての幹部や企画担当者に日本から参加いただいております。そして、本日のシンポジウムでは、更なるインド・日本間の観光交流拡大を目指して、講演と双方の旅行業界によるワークショップが開催されます。

特に申すまでもなく、インドはヒンズー教が主体の国ですが、他の文化に寛容なインドは多くの歴史的宗教的遺産の多くを世界遺産として大切に保存されています。

仏教はインドで興り、シルクロードを経て現在の日本で主要な宗教として発展して参りましたが、我々日本人にとっては、インドは仏教国日本人の第二の故郷であり、ブッダガヤをはじめとする仏教の世界遺産は、今後の日本人ツーリストにとって、最大の魅力のあるターゲットであり、今後多くの日本人が訪れてもらいたい日本・インド交流の最大の動機の一つと言えます。

今回のシンポジウムを機に、具体的に観光商品が企画、開発され、また観光面でのインフラが整備されることによって、持続的な両国間の観光発展の推進に結びつく一里塚になることを祈念しております。

日本の皆さん、心をこめて、この素晴らしいインクレディブル・インディアに日本からたくさんのツーリストが訪問するように頑張りましょう。

最後に、本シンポジウム開催にあたってご尽力、ご支援いただきました、各関係者の皆様に改めて、御礼申し上げて私のシンポジウム開会のご挨拶とさせていただきます。ご静聴有難うございました。

Respectable Mr. Sujit Banerjee Secretary , Ministry of Tourism, Govt. of India, Mr. Devesh Chaturvedi Additional Secretary General and other Indian side people from the Indian government and Ministry of Tourism, also Mr. Masashi MIZUKAMI – Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India,

As for the Japanese side of tourism, Mr. Kosuke Shibata, President of Japan Association of Travel Agents, JATA, Mr. Takashi Sasaki, Vice Chairman of JATA as well as people from Kansai Business circle and West Japan Railway Company,

Thanks to so many peoples' corporation and support, today, we can hold this "UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India".

It's a great pleasure to announce the opening of this event as one of its organizers.

I am Mr. Yuichiro Honda, Chief of the UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific, and President of Asia Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

We, the UNWTO are a specialized agency of the U.N, having 154 member countries. One of the U.N. millennium development targets is " Reduction of Poverty". We are working hard to achieve this goal with "Sustainable Tourism".

Our Osaka Office is the only regional office of the UNWTO, and along with its supporting organization APTEC, we are responsible for the mutual understanding between countries and stability through promoting international tourism exchange in Asia and the Pacific region.

As you know, this symposium, aiming at promotion of tourism exchange and development between India and Japan, was originally planned in January 2009, however, it was postponed due to the global economic recession, which occurred in 2008. This time, thanks to the Indian government's efforts, we are now having the symposium.

India is the biggest country in southern Asia. As for the total number of visitors between India and Japan, according to the statistics of UNWTO, 145,000 Japanese people visited India in 2007, which means Japan is in the third place to visit India within the Asia Pacific region. On the other hand, the number of Indians who visited Japan in 2007 was 67,500 and for Japan, India is in the 8th place within the region.

Tourism exchange between Japan and India has been growing steadily for both sides in the recent years, however, there should be much bigger potential for both our countries in the field of tourism. From now on, with the definition of appropriate guidelines and continual efforts made by both countries' tourism industry and related people, we can expect further growth.

Therefore, we are joined by executives, managers and planners from all major Japanese travel companies. In today's symposium, aiming at further expansions of tourism exchange, presentations and workshops will be held by both tourism sides.

Not to mention, in India, Hinduism is the major religion. However, India is very generous to other cultures, and you are preserving many religious sites as world heritage sites very carefully.

Buddhism started in India and came to Japan through the Silk Road. As of now, it has become the major religion in Japan. For us Japanese, India should be our second hometown because we are a country of Buddhism. Starting from Buddh Gaya, the world heritage sites of Buddhism in India will be very attractive targets for Japanese tourists, so I strongly hope that as many Japanese as possible will visit India. This is one of the biggest reasons for this tourism exchange between India and Japan.

Taking advantage of today's symposium, I strongly hope that specific tourism products will be planned and developed, and with the support of improved infrastructure for tourism, those efforts should lead to a milestone of sustainable tourism progress for both countries.

People from Japan, let's work persistently hard so that we can have more visitors from our country to this " Incredible India".

Lastly, to the people who made great efforts and supported holding this symposium in various fields, I would like to extend my sincere gratitude. Thank you very much.

水　上　正　史　　H.E. Masashi Mizukami
在インド大使館　次席公使
Minister Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India

バネルジー氏、チャトルベティ氏、田端氏、本田氏、その他の方々、ありがとうございます。大使館の水上です。

ここデリーでの私の役割は２つあり、ひとつは日本政府としてより多くのインド人の日本への観光の促進、もうひとつは日本人観光会社が日本人観光客をより多くインドへ送って下さるように促進することです。

今日は２つの事を日本から来られた観光業界の方にお伝えしたいと思います。

まずはインドの治安の問題です。これは旅行社の一番のご懸念の点だと思いますが、インドは私の印象として、非常に安全な国の一つでございます。インドでの爆発の報道などがありましたが、インドは日本とは比べられない広がりを持っているのです。この国は28の州、7の連邦直轄地から成っており、人口もヨーロッパの大体２倍です。

これだけの人間がいて、事故や事件がおきないわけがありません。おそらくヨーロッパ、あるいはアメリカ合衆国と比べても事故の少ない地域だと思っております。ヨーロッパは安全だと思われるかもしれませんが、いくつかのヨーロッパの国ではだんだん治安が悪くなっており、過去10年15年というスパンで見ればヨーロッパでもコソボなどで多くの人が戦闘で亡くなっております。じゃあ、インドでそんな戦闘が起き、コソボのように人が死んだのか、死んでおりません。日本でいろんなニュースが流れると、それは全部インドという単語だけで終わっていて非常に治安の悪いような印象をもたれておりますが、私は、インドの都心の一定の地域は全く問題無いと思っております。唯一怖いのは人間じゃなく、狂犬病の問題がある野良犬で、それには気をつけていただく必要がありますが、インドは危ない所だというイメージをぜひ払拭して頂きたい。

２番目は、次官からもお話があったインドでのスキーで、ヨーロッパアルプスの地域からもスキーヤーが来るほど、コースにバラエティーがあるのだろうと思っています。また、インドで楽しんでいただける一つに、買い物があると私は思っています。手作業の細かいものは、本当にお得な値段で、日本に帰る時にはとても重宝なお土産となるそうです。本当に手の込んだものがあるので御覧になる機会があればぜひ見て頂きたと思いますし、そうした買い物の魅力というのも私はぜひここで楽しんで頂きたい。日本が一番心配する知的財産権の問題ですが、ここはそう言ったニセモノがありません。それはこの国がやはりオリジナリティーを持っており、だからこそ、例えばここで持って帰ったものが、日本で十分楽しめるものになると思います。

最後に、日本大使館がインド政府にお願いしているのはビザの問題で、観光ビザだけではなくビジネスビザや就労ビザの柔軟性もとても重要です。それらを充実させ、より多くの人々の交流を促進し、両国の建設的な発展、そして観光が進むことを願っております。ありがとうございました。

I have two functions here in New Delhi, one is as a Japanese government official, to promote more Indian people visiting Japan as tourist. The other is asking the Japanese tourism industry to promote activities to increase Japanese tourists coming to India. I would like to talk about two issues to the people in the tourism industry from Japan.

The first one is about security. This must be one of the biggest concerns for travel companies. However, in my impression, India is one of the safest countries. Though there was media coverage of an explosion in India, India is so huge and it cannot be compared to Japan. This country consists of 28 states and 7 Federal districts, with double the population of Europe. It is natural to have incidents or crimes with such a large number of people. I believe that even compared to Europe or the U.S.A. India has fewer incidents. You may even think that Europe should be safer, however security has recently been getting worse in several European countries. Considering a time span of 10 or 15 years, many people died in a war in Kosovo, Europe. Did India have such a war, and did so many people die? The answer is NO. When people hear negative news about India in Japan, they apt to think very simply and India may give them an impression of being an unsafe country. But I think certain areas in big cites in India have no comparable problems from the view point of safety. The only major scary issue seems to be rabid stray dogs and you need to be very careful to them. However, please wipe out the idea that India is a dangerous place in the minds of potential customers.

Secondly, as Mr. Benerjee said, Indian skiing is so diversified in its courses that it can attract European skiers where they can enjoy Alpine mountains. Also, another pleasure in India is shopping. Hand crafted products are very intricate and reasonably priced. Therefore, they can be very good souvenirs when travelers go home. Some are extremely well made. So, if you have a chance to see them, please enjoy the attraction of shopping in this country.

As for the issues of intellectual property rights, which is the biggest concern for Japan, there are comparatively few such fake products here. This is because India is a country of originality, and that's why the products made in India will be highly appreciated in Japan.

Lastly, I would like to talk about the visa issue, which the Embassy of Japan is asking the Indian government to consider. The flexibility of visas is very important, which includes not only tourist visas but also business and employment visas. I sincerely hope that we can enhance constructive prosperity and tourism by promoting human experience interactions between India and Japan. Thank you.

答礼 ● VOTE OF THANKS

柴　田　耕　介　　Mr. Kosuke Shibata
日本旅行業協会　理事長
President, Japan Association of Travel Agents (JATA)

尊敬するスジット・バネルジー次官閣下、デベシュ・チャトルベディ局長、他に本日御臨席を頂いた、インド観光省をはじめインド側関係者の皆様方の御協力により、このように盛大に本シンポジウムを開会出来ましたことに、日本側参加者を代表して心より感謝を申し上げます。

インドは、長い歴史と伝統に培われた豊富な観光資源を持ち、本当のコモンウェルスを世界に提供する、そして全世界が注目する急速な経済発展を遂げております。

私共日本の旅行業界も、日本人観光客のデスティネーションとして今後急速に拡大する可能性の大きな国として、インドに非常に大きな関心を持っております

今回のこのシンポジウムで、私共が最新のインド観光事情について情報交換することにより、日本とインドとの観光交流、人的交流そして経済交流が更に拡大していくよう努力して参ります。

本日は本当にありがとうございました。

Respectable Mr. Sujit Banerjee – Secretary, Ministry of Tourism, Govt. of India, Mr. Devesh Chaturvedi , Additional Secretary General, other government officials from the Ministry of Tourism and the people from related tourism sectors, thanks to your kind cooperation, we could hold such a magnificent symposium. On behalf of the Japanese side, I would like to thank you from the bottom of my heart for your kindness.

Your country India has abundant tourism resources by cultivating its long history and tradition and is offering the real commonwealth spirit to the world and is now getting attention in regards to your surprising rapid economic growth from all over the world. We, in the Japanese tourism industry believe that India has big potential to become a good destination for Japanese tourists, so, we are very interested in India.

Through this symposium, by exchanging information about the latest status of Indian tourism, we are determined to make our best efforts to promote the expansion of Tourism Exchange, Human Exchange and Economic Exchange between India and Japan. Thank you.

アトール　ライ　　Mr. Atul Rai
インドツアーオペレーター協会 名誉総合局長
Honorary Joint Secretary, Indian Association of Tour Operators (IATO)

皆様方、インドの観光業協会を代表いたしまして、日本からの皆様にご挨拶申し上げます。我々はこの記念すべき機会に参加でき、とても光栄に思っています。そして今後、考え方や専門知識などの有益な交流が両国間で発展していくのを楽しみにしています。私たちが若い頃には、日本製のあらゆる電子機器や機械の技術的な革新性に驚き、あこがれておりました。日本から、おいでの皆様方には是非ともそれと同じ革新性を発揮して、インドへの観光を独自な方法で積極的に促進していただきたいと期待しています。

2008年度にはインド関連市場に対し日本からは効率良く、15万人もの来訪者がありました。日本からの観光客の数が夏に更に増えるのは実に喜ばしい事ですし、それはインドの観光業界としては良い兆しと受け取っています。我々はこのシンポジウムで日本からの情報を基に旅行のパッケージについて話し合おうと楽しみにしておりました。

このまたとない機会に、我々の活動をより広げ、さらには今後の日本とインド間の観光を促進するために、両国の観光業界の専門家達がより効率良く業務を遂行できるようになることでしょう。我々はこの両国の絆を強くしっかりしたものにするためにいかなる方策をも取り入れる所存です。

我々はとにかく日本からの観光客数を増やしたいのです。フライトの接続の改善、日本食や日本語を話せるガイドの提供、仏教の聖地への鉄道を使ったより良い接続、日本語でのカタログや参考文書など、あらゆる方策を協力して進めています。

私共、インドツアーオペレーター協会の会員は、インド観光省の多大なる支援を受け、政府の要項に従い様々な計画を進めて参りました。IATOは1982年に設立され、1,400の会員がいます。我々のロゴは「IATOの現役会員は、完全な資格を有する、貴方の信頼に足るパートナーです。」と示しています。

UNWTO、JTA、JATAの皆さん、そして我が国の政府の皆さん、このように意見を交換できる素晴らしい機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

Ladies and gentleman, on behalf of the Indian Association of Tour Operators I extend a very warm welcome to our honored guests from Japan. We are honored and delighted to be a part of this landmark occasion. And look forward to a mutually beneficial interaction exchange of ideas and expertise. During our growing years, we have marveled and admired the technological innovativeness of all electronic gadgets and machines made in Japan. We would like to urge all our friends from Japan to apply the same innovativeness to promote India more aggressively and uniquely.

Japan has been contributing very effectively to the Indian 'involved market' to the tune of 150,000 arrivals in the year 2008. We are also happy to see the increased number of arrivals from Japan during the summer months. It's a good sign for our travel partners in India. And we look forward to this symposium to discuss and work out packages based on your inputs.

This unique opportunity will provide a platform for expanding our reach and access, which will enable our tourism professionals to conduct business more effectively, thereby boosting tourism between Japan and India. We are geared to adopt any measure which works in favor of enhancing and strengthening our bond.

We are desirous of a greater volume in terms of tourists from Japan, having cooperated in all measures to improve air connectivity, provide Japanese cuisine restaurants, Japanese speaking guides, train connectivity to Buddhist hotspots and more Japanese language brochures, reference materials etc.

We, the members of Indian Association of Tour Operators (IATO), have, with the valuable support of the Ministry of Tourism, planned and implemented schemes in line with matching requirements. Established in 1982, IATO has about 1,400 members. And as our logo says, "an active member of IATO is your reliable and trusted partner with impeccable credentials." We thank UNWTO, JTA, JATA and our ministry for providing this excellent platform for exchange of ideas.

ナレシュ　シャルマ　　Mr. Naresh Sharma
インドツアーオペレーター協会 幹部会員
Executive Committee Member of IATO

皆様方、このシンポジウムに参加できとても光栄です。今日はインドについてのプレゼンテーションをさせていただきます。インド観光は伸びております。ホテルに関してですが、観光の要であるデリー市内や周辺で2010年までに5,000室が追加的に利用可能になります。

フライトの接続に関してですが、現在我が国では国中のどこにでも多くの民間の航空会社があります。料金も以前に比べてお値打ちになってきており、事前に予約しておけば、世界のどこに比べても劣らないほどの価格でご利用いただけます。

また主なハイウェイは今や全てが６～８レーンとなり、以前よりもずっと時間が短縮できるようになりました。観光客の関心のある都市間を結ぶ列車も今はドイツのデザインと技術を取り入れ、インドで作った新しい車体に変えて、以前よりももっと広くて綺麗になりました。

インド観光省のお陰で、観光客がデリーのインドの一般家庭に滞在することも可能になり、それらは朝食付きで2,500～3,000ルピーの低価格です。それ以外に、予算のあまり無い観光客には他の都市でも以前よりもずっと綺麗な二つ星、三つ星のホテルが提供できるようになりました。また、メディカルツアーにおきましても、我が国は何世紀にも渡る専門知識がありますので、世界で最高レベルのものを提供できます。

次はツアーガイドについてですが、インド観光省は2010年までにガイドを2,500人追加することを約束しています。主な観光都市では専門的な訓練を受けた外国語でのガイドも利用可能となっています。

食事ですが、日本食、中華、タイ料理、韓国料理レストランなどがデリーやムンバイなどの主な都市で揃っております。

さて、観光についてですが、チャーター便でヒマラヤ山脈へ、偉大なるガンジス川、砂丘とラクダの砂漠、そしてヨガと瞑想、さらにはストレスを取り除くアーユルベーダもあります。野生生物の聖地も至る所にあり、インド虎などが見られます。アドベンチャースポーツとしてはスキーやラフティング、そしてダンスも各地で楽しんでいただけます。また買い物に関しましても、インドには特徴のある細かい手作業の工芸品から、都会のデパートでは世界的なブランド品までも取りそろえております。

光の祭り、色の祭り、また数多くの宗教的祭りなど、インドには多くの祭りもあります。日本人の関心の的の仏教の聖地へも、道路が大幅に改善されました。昔の状態で残っている仏教の聖地への、何物にも例えがたいすばらしい旅を楽しんでいただきたいと思います。

そして４種の豪華な列車も登場いたしました。それらに関しましては、ワークショップでのプレゼンテーションで別の方が話されます。ご静聴ありがとうございました。

Ladies and gentleman, it gives me an immense pleasure to be a member of this symposium and I'd like to give a small presentation about the growth of tourism in India. Regarding hotels, an additional 5,000 rooms will be available, by or up to 2010 in and around Delhi which is a tourist hub.

For air connectivity, now we have a lot of private airlines available for all domestic sectors. They offer more competitive rates than the earlier fares, and if you book in advance, it's as cheap as any other place you can compare with.

All major highways are now converted into 6-8 lanes, which creates less travel time than the earlier ones. Most trains, which run between the cities of tourist interest have new bodies based on German design and technology, but made in India. They are more spacious and much cleaner than the earlier trains.

Thanks to the Ministry of Tourism, tourists can experience a stay with an India family with a moderate price, which varies from 2,500 to 3,000 rupees per night, including breakfast, in Delhi. All other cities have now good 2 and 3 star hotels, much cleaner and can easily be fit for the budget tourist. As for medical tourism, we have centuries of expert and professional medical care, at par with the world's best.

Regarding tour guides, the Ministry of Tourism has promised to provide 2,500 additional guides by 2010. Foreign language guides are available in most cities of tourist interest and these guides are also professionally trained.

Regarding cuisine, Japanese, Chinese, Thai, and Korean restaurants are available in most metropolitan cities like Delhi and Bombay.

Now we come to sightseeing. We have charter flights, which are available to experience the Himalayas, Wild Ganges River, deserts with sand dunes and Camels, Yoga and meditation as well as Ayurveda can alleviate your stress. As for wildlife, we have a lot of wildlife sanctuaries such as those for Indian tigers all around India. We also have our adventurous sports, such as skiing, rafting and even dancing in each state. Concerning shopping, we have unique hand craft as well as international branded goods in the city malls and department stores.

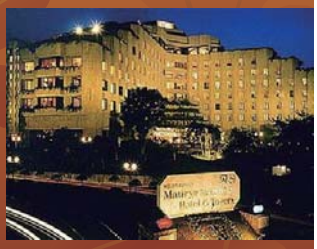
We have a lot of festivals in India such as a festival of lights, festival of color, and many festivals of religion. We have many monuments and unique and ancient buildings, which can be seen all around India. Now for Japanese Buddhism, the roads to holy heritage sites have been improved. We would like you to discover a priceless treasure of pristine Buddhist heritage.

Additionally, we have now 4 luxury trains with us, and more detailed information about these will be described in the workshop. Thank you so much, and thank you for your patience.

GROWTH IN TOURISM SECTOR IN INDIA

Hotels

- Additional five thousands rooms will be available by October 2010 in and around Delhi, which is the tourist hub.



Air connectivity

- Now we have a lot of private airlines available for all domestic sectors. They are more competitive than earlier fares..

Transport and roads

- Better transport facilities are available now, most of the international branded cars and Volvo coaches are available in all major cities of tourist interest. All major highways are now converted in to six to eight lanes.

Railways

- Most of the shatabdi express which run between the cities of tourist's interest has new set of bogies on the German design and technique but made in India, They are more spacious and much cleaner than the earlier ones.

For budget tourists

- Delhi govt. has announced and sanctioned one thousand rooms on bed and breakfast basis as paying guest accommodations In private home. One can experience stay with Indian family with a nominal price which varies from 2500/- to 3000/- per night including breakfast.
- All other cities like Agra, Jaipur and Varanasi has now good two and three star hotels which can easily be fit in for budget tourists.

Medical Tourism

- Enter into a sanctuary of expert and professional medical care,at par with the world's best. Affordability,availability,specialization,finesse and above all-personalized attention are India's forte. For a truly incredible healing experience, it's definitely destination India!

Tourist guides

- Govt. of India tourist office has promised to provide 2500 additional guides by 2010.
- In this process they have already trained more than 750 guides and another 500 guides are already having professional training at present.
- Foreign language guides are available in most of the cities of tourists interest and these guides are also professionally trained.

Japanese ,Chinese, Thai and Korean restaurants

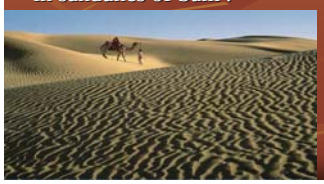
- Most of the metropolitan cities like Delhi, Bombay, Chennai, Bangalore and kolkatta has Japanese,Chinese, Korean and Thai cuisine available in authentic restaurants. Most of them are either in the hotels or local shopping areas.

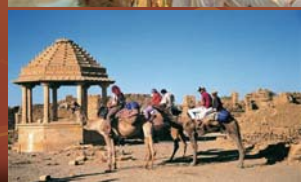
Himalayas

- We have a beautiful Himalayas for trekking and sight seeing purpose. The charter flights are available to Experience the Himalaya via Ganges River in Haridwar and Rishikesh. The flights can be arrange from Delhi and Dehradun

Deserts

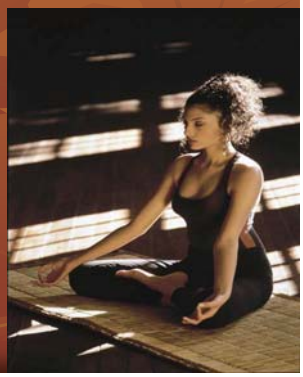
- The sandunes in jaisalmer with night dance and dinner is an unique experience at itself in the deserts.
- Camel safari's are available in sandunes of Sam .





Yoga and meditation

- Yoga classes and unique spa in the hotels are available in all around the beaches.

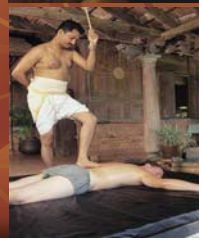


Backwaters

- A unique experience to stay in the house boat in backwater of cochin, allapey and kotayam.
- One can really experience the touch of nature.

Ayurveda

- To take out your stress and get relief of all pains, experience the ayurveda massages which are available in all around India.

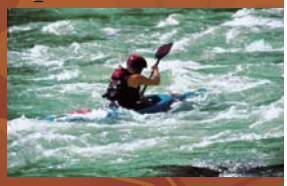


Wildlife

- The Indian tigers can be seen mostly in the jungles of Madhya Pradesh and Gujarat. We have a lot of wildlife centuries in all around India.

Adventure sports

- One can experience this skiing, water sports, mountaineering, and water rafting in India.



Dances

- Every state has a different dance which is been performed on every festival and ceremonies. They can be arranged on request.

Shopping

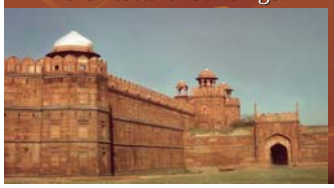
- We have the unique handicrafts, goods are available in and around all tourist places. However, we have all international branded goods are also available now in India in city malls and departmental stores.

Festivals

- We have festivals of lights -Diwali
- Festivals of colour Holi
- Festival of religion like: Id , Dusshera ,Ganesh chaturthi, and jaganath rath yatra.

Monuments

- A unique architectural and ancient buildings can be seen all around India. Every different state has different architectural buildings.



Buddhism

- Retracing Buddha's Footsteps
- Walk with the Buddha-Take an enhancing journey across Bihar and Uttarpradesh.
- Discover a priceless treasure of pristine Buddhist Heritage.

LUXURY TRAINS

Thank you

「インクレディブル　インディア」

Presentation on various efforts that are being undertaken by the Ministry to promote India in overseas Market

デベシュ　チャトルベディ　　Mr. Devesh Chaturvedi

インド観光省　局長

Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

皆様方、私はインド観光省局長のデベシュ・チャトルベディです。インドの観光を促進、開発するために我々インド政府が進めている努力についてお話しさせていただきます。

インドはEUのごとく、さまざまな州がありその各州にそれぞれの文化やテーマがあり、本当に多くの見所があるのです。特に、日本の冬の11月から３月にはお薦めです。太陽と砂、そして国中が穏やかな良い気候の時期だからです。

インドへの観光は2002年頃からゆっくりしたペースで始まり、「インクレディブルインディア」やその他の広報活動で2007年には大きく勢いが付いてきました。2008年の観光客は520万人で、2009年は多少減少しましたが、今年はまた明るい兆しが見えています。外貨換算した観光から得られる利益は増加を見せており、我々はインドの観光の成長はまだ今後も続くと自信を持っております。

コモンウェルス大会が近づいてきておりますが、外国人観光客が増えるなど、観光においてはとても大きな数的増加を見込んでおります。さらには我が国にはおよそ４億から５億の国内の観光客もおり、彼らは観光シーズンではない４月から７月の期間も動き回っており、各観光地のインフラ整備と経済の活性化に貢献しています。

日本からの訪問客は2006年には119,000人、2007年には145,000人で、2008年には151,000人でした。日本はインドへの訪問客数としては８番目に位置する国で、我々としてはもっと多くの方々に日本から来ていただきたいと願っておりますが、それも私たちの努力次第でもあると思います。

宣伝活動に関しまして、過去１、２年の間に我々が採択した戦略についても簡単に概略を述べたいと思います。ムンバイとプネでテロがありました。しかし、この地球上では災害もテロも何も起こらない場所など、どこにも無いと思うのです。インドは広大な国ですが、極めて安全なのです。マハトマ・ガンジーがこう言いました。「私は国土のあらゆる文化ができるだけ自由に栄えて欲しい、しかし、何物にも足元をさらわれるような事は避けたい。」これは世界に対して、我々は断固として立ち、たとえ事件が起ころうと、我々の民主主義への道を阻む事はできない、インドへの外国人観光客を迎えることを阻むことはできないとのメッセージだったのです。インドは多文化社会で、それがインドへの観光を促進してきたのです。「お客様は神様のようなもの」が私たちの歓待の精神であり、私たちは単にビジネスとして人々を歓待するのではなく、元々人との出会いを好む性質を持っているのです。そのような精神の下、若い人々も一緒になって我々は市場戦略、ポスター、映像などの部門で多くの国際的な名誉ある賞を勝ち得てきました。そのような映像もこのプレゼンテーションの最後にお見せ致します。

さて、日本市場に向けてですが、到着ビザは当面観光目的のみに限られておりますが、もし今後要請があれば、それはビジネスビザにも拡大され得ます。これはインド政府が１年間５カ国に対して実施するはじめての試みです。１年後にはこれを見直し、今後どのような自由化を実施できるかを考えていくわけですが、我々はあくまでもこのような要請を念頭に置き、日本からの観光客のために一層の努力をして参ります。

仏教は観光市場の中でも最も重要なものです。インドはその発祥の地で、我々は常にインドの仏教巡礼回路の促進に努めております。日本の銀行のJBICやJICAなどがこの巡礼回路の発掘に資金提供してくれていまして、今や次から次へと仏教の聖地が現れているのです。ビハール州の仏教の聖地はブッダガヤ、ラジギール、ナーランダから始まり、バイシャリなどと続いていきます。これらは仏教を学んでいる日本からの観光客には、とても関心を持っていただける重要な地となるでしょう。

インドには砂漠のサファリもあります。ジープやサファリ用の車を使うのですが、インドの文化的要素もふんだんに盛り込み、美味しい料理も楽しんでいただけるもので、２月27日より開始致しております。また、我が国には美しい、自然に優しい、野生生物豊かな浜辺も多くあるのです。日本の寒い冬の季節に是非おいでいただきたいものです。

精神的そして健康促進的な分野、すなわちアーユルベーダ、ヨガ、その他の癒し療法の観光に関しても、インド政府は積極的に促進しています。今年の９月頃にはケララ州で健康促進の国際会議を行う事になっています。どうか皆様も一度ケララ州においでになり、私たちのお客様としてこの癒しを体験なさってください。我々は日本が発展したのは、１日に12時間から14時間も働くような勤勉さのお陰だと知っています。しかし、そのような働き者の方々にはレジャーや休日で身体を若返らせたり、健康上の問題を取り除いたりすることが必要ではありませんか。本当に是非ともおいで下さい。

私たちはもちろん日本も含めて、観光の海外市場への強化を高めています。一連のロードショウやアウトドアキャンペーンなどを日本でも展開していますが、これは単にビジネス的側面だけでなく、日本の人々に私たちの思いを届けたくてやってい

るのです。私たちは市場開発計画における投資も更に進めていきますが、そのような投資の一部がこのセミナーの開催にも使われたわけです。

また、我々は疑わしい宣伝文句、間違った情報などから観光客を守る法律の整備を致します。確かにそのような被害もまだあるかもしれませんが、実際には本当に心から皆様も歓待する業者が多いのです。現在この法律は整備中でして、外国人観光客のためには、これは我々の使命と思っています。

主なハイウェイ沿いのアメニティ施設（サービスエリアなど）は重要な観光地に導いてくれるものです。我々インド政府は各州政府と協力して、主な道路に50キロから100キロ毎に道路沿いのアメニティ施設の設置に尽力しています。設備は美しく、世界的なレベルのもので、しっかり手入れもされ、観光客の方々が旅の途中で何も問題が無いように配慮しております。

多言語の観光専門ガイドに関してですが、既にもうそこそこの数はいるのですが、それでも我々はもっと訓練を施し、より多くの言語のガイドを育成していく方向にあります。日本語ももちろん含まれており、皆様方には国中のさまざまな興味深い地で彼らを使うことができるようになります。

ホテル宿泊に関する要請に関してですが、私たちは現在そのフィードバックの真最中でして、丁度コモンウェルス大会があるのでそれを機会に、あらゆる種類の宿泊施設の開発を検討しようとしております。その中にはとても安い料金のホテルも含まれています。我々は何とかホテルの料金をもっと安く、競争できる価格に下げたいと望んでいます。そうすれば、インドへのパッケージツアーがもっと競争力を持つからです。この方向性は外国からのそして国内の観光業界からのフィードバックを下に生まれたものです。我々は観光産業に対して多大なる奨励策を提供しました。その中には割安ホテルへの税金削減策なども含まれています。これにより、１年後にはデリーでもその他の地域でもホテルという点では大きな変化が起こる事になるでしょう。

コモンウェルス大会を控えて、デリーはどこもまさに手術中のごとくに見えるでしょうが、本当にどこも改善するために大きな手術をしておりまして、そのどれもが３月、４月から６月辺りまでに完成することになっています。メトロも３ヶ月後に開通です。

コモンウェルス大会を控えて、デリーはどこもまさに手術中のごとくに見えるでしょうが、本当にどこもよりよくするための大きな手術でして、そのどれもが３月、４月から６月辺りまでに完成することになっています。メトロも３ヶ月後に開通です。

空港の整備も進んでおりデリーやムンバイの新たな空港は完成間近ですし、ハイドロバードやバンガロールにも国際空港があります。これらの新たなインフラの整備により、観光地そのものは素晴らしいけれど、途中でトラブルが多くてなかなか目的地にたどり着けない。という皆様方の懸念を払拭することができます。空港から目的地、もしくはホテルまで、観光客は何も苦労することなくスムーズに到着できるようになるのです。それは時間や労力、そしてお金の節約にも繋がります。

今は、我々インド政府、各州政府、そして関係民間団体がそれぞれ協力して、これら全ての努力を進めており、今後数年先にはインドがもっと面白い、もっと魅力的な目的地となる事に焦点を絞っています。我々は日本からもっと多くの方々がさまざまな方面に関心を持ってインドに来ていただきたいと心から願っておりますし、そのためにもここにいらっしゃる皆様方には重要な触媒の役割を果たしていただきたいとお願いしたい次第です。さて、私のスピーチは終わりますが、最後にインドの観光を映し出しているグランプリ賞に輝いた映像作品をお見せいたしましょう。ご静聴ありがとうございました。

Distinguished ladies and gentlemen, I am Mr. Devesh Chaturvedi Additional Secretary General, from the government of India. I'll just give you a brief presentation of what other efforts of the government are in terms of promoting and developing the Indian tourism sector.

India is like the European Union with each state having a different culture and different theme, so there really are many different things and places to enjoy. In particular, I would like you to visit us when Japan is in winter from November to March. We have sun and sand and very moderate weather all across the country during winter.

Indian tourism started from a low base in the year 2002 and a campaign of "Incredible India" coupled with other initiatives taken has boosted tourism in 2007. We had about 5.2 million visitors in 2008. 2009 saw a bit of a decline, but we have recovered a lot, and this year is looking very bright for us. The foreign exchange earnings have still shown an increase, and we are very confident that the growth of tourism sector in India will continue to increase.

The Commonwealth Games is approaching, and we feel there will be a huge surge in these tourism figures, such as foreign tourist arrivals. Additionally, we have over 4-500 million domestic visitors And they move even in a non-tourist season from April to July bringing resilience to the infrastructure and economy of that area.

As far as Japan is concerned, we had 119,000 visitors in 2006, 145,000 visitors in 2007, 151,000 visitors in 2008. Japan is 8th on the list of countries with high visitor numbers to India, and we expect more tourists from Japan, which depends on our efforts.

As for promotion, I'll give you a brief outline of our strategy adopted in the last one or two years. We suffered incidents in Mumbai and Pune. But there is no place on the earth where we do not have any disasters nor terror attacks. India is a vast country and quite safe. Mahatma Gandhi said, "I want all the cultures of all lands to be blown about my house as freely as possible, but I refuse to be blown off my feet by any." It was a message to the world that we stand resolutely, and no such incidence will deter us from our path of democracy or the path of welcoming foreign tourists to India. Our country is a multi-cultural society, which has led to a sustained surge in tourism in India.

Our spirit is that "the guest is like a god for us." We are not only hospitable for the sake of business , but we are hospitable by nature.

With such a spirit, we promoted various activities even with young Indians. We have won many international accolade awards as for marketing, posters, film and so on. I will show you the film at the end of the presentation.

Now as for the initiatives for the Japanese market, visa on arrival facility is available only for a tourist visa, but if there is a request, it can be extended to the business visas also. This is one of the first such efforts by an independent India to issue visa on arrival facility for these five countries and for one year. And there will be a review after one year to see what further liberalization can be done, but we'll surely keep this request in mind while pressing for more concessions and more facilities for tourism from Japan.

Home of Buddhism is one of the most important market destinations. India is the land of its origin, and we are consciously making efforts to promote Buddhism circuits in India. The Japanese banks, JBIC and JICA have given a lot of loans of funding for promoting and developing Buddhist circuits in India, and we are recently finding more and more Buddhism sites unearthed. Buddhist sites in Bihar start from Bodh-Gaya, Rajigir, Nalanda then Vaishali and etc. These are very important sites which may be of interest to the tourists who have Buddhism leanings in Japan.

We will be starting a unique desert safari, using a jeep or a vehicle safari, with cultural aspects of India and good cuisine starting from February 27th. We have many beautiful and eco-friendly beaches with rich wildlife. Therefore, I would like you to visit our beaches in the cold winter of Japan.

As for spiritual and wellness such as ayurveda, yoga and the healing therapies, Ministries have taken a major step in promoting these holistic health care tourism features and we are having a major international conference on wellness sometime in September in the state of Kerala. We would like you to visit Kerala and experience that healing as our guests. We know that Japan has developed because of working hard for 12-14 hrs./day. But such hard work should always be coupled with some sort of leisure and a holiday to rejuvenate oneself and to remove health issues. So we would certainly welcome you.

We are intensifying our overseas marketing efforts, of course including Japan. We will be having a series of road shows and outdoor campaigns in Japan to reach, not just to reach trade, but also to reach the people in Japan. We will be having enhanced investments in market development scheme. Part of which has been used to organize this seminar here. We also have a law to protect the tourist against doubting and misrepresentation, though we do occasionally experience such incidents, we also know that we do have many genuinely hospitable service providers. We are in the process of creating such a law. We have this commitment to the foreign tourist coming to India.

The wayside amenities on main highways leading to key destinations; We have taken initiatives with state governments to develop wayside amenities every 50-100km on the main roads with state of the art world-class facilities which are properly maintained so that tourists do not have any problems in terms of freshening up in between destinations.

Regarding the multi-lingual trained guides, we already have some numbers but we are moving ahead with training more of such multi-lingual trained guides, including the Japanese language so that you can use them for much more interesting tours in various parts of the country.

Regarding demand for hotel accommodation, we are in the process of collecting feedback and trying to use the opportunity of the Commonwealth Games to develop hotel accommodations in all sectors, including budget hotels. We hope we can reduce the prices to reasonable and competitive levels, which will make the overall package of Indian destinations much more competitive. This directive is due to the feedbacks given by most of our foreign counterparts, and Indian counterparts. We have provided a lot of incentives to the industry, which include tax incentives to hotels in the budget sector. This will result in a sea change after a year in terms of the hotel rooms in Delhi and other parts of the country also.

柴　田　耕　介　　Mr. Kosuke Shibata
日本旅行業協会　理事長
President, JATA

今回でインドへは４度目ですが、インドの急激な経済成長には驚いております。そのような大きな変化の理由の一つは外国からの資本投資、そしてもう一つはインドが重要な市場として海外より認識されるようになったことではないでしょうか。私のプレゼンテーションを海外からの専門的な目で見ていると受け取っていただけると嬉しいのです。

さて、これからはスライドに沿ってお話しします。まず、JATAですが、1959年に設立されました。観光庁によって認可されている非営利の旅行業界機関で、その目的は観光産業の振興と消費者に対するサービスの向上への貢献です。典型的な活動例としては、去年の９月に151カ国、699団体に参加いただいてJATA世界観光会議とトレードフェアーを開催しました。今年も同じイベントを９月の24日から開催予定です。JATAのメンバーに関してはスクリーンをご覧下さい。海外メンバーも含まれています。もし貴社の名前が載っていないようでしたら、どうか今後の参加をご検討下さい。

（スライド８）インドの仏教文化の日本への影響は多大なものです。今年のAPECが開催されることになっている奈良県の有名な薬師寺の建築もその紀元はインドにあるそうです。（スライド９）また、ヨガの瞑想は禅の瞑想に影響を与えており、世界的にもその人気が高まっています。

（スライド10）日本のカレーライスは直接インドから伝わったのではなく、イギリスの「インドシチュー」が発祥です。これら３枚の写真はインドと日本が文化的にいかに近いかを表しています。

（スライド11）ツアーの企画スタッフによりますと、シッキム、エローラ・アジャンタ、そしてパナジ（ゴア）の３カ所が今後最も人気の出そうな観光地になるようです。シッキムは夏の避暑地として、エローラ・アジャンタは世界遺産、またパナジは質の高い砂浜でそれぞれが有名です。また４つの活動も将来的にはもっと注目を集めるでしょう。そのような活動の１つめはガンジス川での沐浴と祈り、２つめは女性のアーユルベーダ体験です。アーユルベーダは聖なるという意味だけでなく、美を求めるという点でもとても重要で、美の価値は男性も女性もが共有しているものです。３つめはマハラジャ列車のような豪華列車で、４つめはさまざまな有名な地元のお祭りを見に行くことです。

（スライド14）次はフライトのアクセスを見て見ましょう。スライドが示すように３社の航空会社がインドに乗り入れています（スライド15）。２国間の飛行時間はおよそ８時間で、時差は３時間半です。2010年の１月の時点での便数は表にある通りです。合計すれば１週間に17便あり、席数は2,670となりますが、私としては各航空会社に少なくとも週に７便は出して欲しいと思っています。

（スライド16）では、エジプト、トルコ、ベトナムとインドとを比較してみましょう。2010年１月時点での毎週の直接の便数と席数がそれぞれ表に示されています。３月末からは成田からの規制も緩和されるので、日本の旅行会社は、航空会社が新たな市場開拓のための努力をしてくれるものと期待して、新しい観光製品を開発しているのです。

（スライド18）では、これら４カ国への日本からの渡航者の数を見て見ましょう。この比較は2004年から2007年までの４年間のものです。日本からベトナムへの観光客の数は25万人から40万人に膨れました。その他の国はそれほどの増加は示していませんが、インドへの観光客は徐々に増えています。毎週の航空便数、そしてその魅力の大きさを考えれば、我々はインドに対してはとても良い展望を持てると思います。2010年には少なくともトルコを超える20万人の日本人にインドを訪れて欲しいと思います。

（スライド19）さて、観光客を惹きつける最も効果の高い方法はビザを無くすことです。ベトナムの例を見てみましょう。2001年時点での観光客数が204,000人だったのに対し、2002年は279,800人で、これは37%の増加です。もちろん、到着ビザの導入はとても重要なステップではあります。しかし、それではまだ不都合があるのです。ですから私は本当に心からインド政府に対して、観光客のためにさらにビザ要項を緩和していただくことをお願い致したいのです。

（スライド21）消費者に向けて新たなイメージを開拓していく戦略を実行していくことはとても重要です。この点ですが、私は日本の市場に向けてインドの文化的影響、不思議さに加え、インド人の人なつこさ、そして歓待の気持ちをさまざまなメディアを通して強くアピールすべきだと忠告したいのです。

（スライド22、23）スライドの写真を見てみると、インドと日本が良く似ていることに驚きます。ここで、日本でPRに成功したいくつかの観光国の例を示したいと思います。クロアチアのドゥブロニクは世界遺産で、今や日本人にとても人気があ

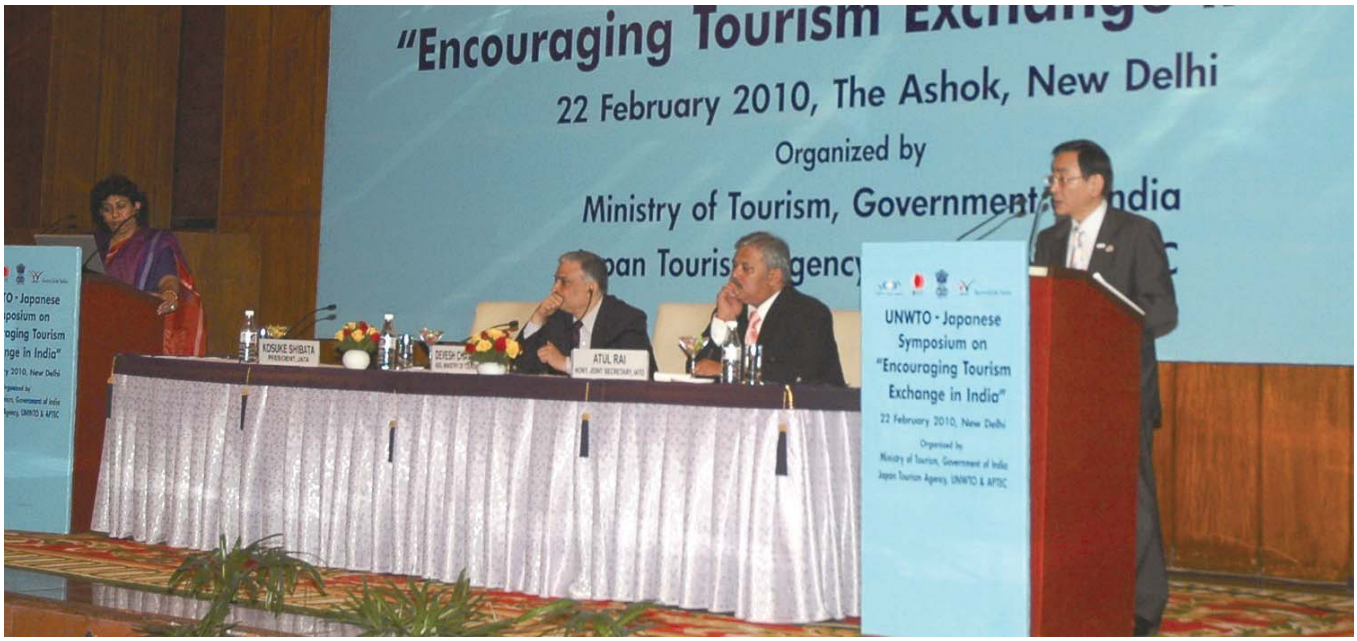
るのですが、これは４、５年前には考えられないことでした。この写真が日本人の間でクロアチアの新しい綺麗なイメージを作る事に成功したのです。フランスのメッセージは日本とフランスがいかに近いかを物語っています。このポスターは二つの有名な世界遺産を映し出しており日本サイドは厳島神社、そしてフランスサイドは昔からのイメージのエッフェル塔の替わりに、モン・サン・ミッシェルです。「インクレディブルインディア」、これは良いキーワードでありロゴでもあります。しかし、残念ながら一体何がインクレディブルなのかがはっきりしていません。そこのメッセージが大切なのです。またビジュアル映像は女性には特に効果的です。女性には理論というよりもまずはイメージが大切なのです。ですから、新たな観点、新たな角度からの新しい絵を探してみてください。

（スライド24）インドの新たなイメージを作るためにお伝えしたい地域はまだいくつかあります。まずは夏に訪れてみたい北部のダージリンやブラマピュトラ川クルーズなどです。

２つめはインド南部の高品質のリゾート地です。混み合う時期をはずせば品質が高い割には宿泊費もお値打ちで、おまけに豪華列車の旅は高級感を望まれる日本のお金持ち層にアピールしそうです。

３番目はテーマ性・趣味性の高いツアー（SIT）ですが、これもとても重要です。市場サイズとしては大きくはないのですが、価格競争が激しくないのです。「花の谷」、地元の文化、野生生物の聖地、おしゃれな場所や数多くのショッピングなども旅行業者にはしっかりと宣伝して下さい。残念ながら、ここで使われている３枚の写真はあまり良いものではなく、現地の良さは伝わっていませんね。

最後に解決すべき問題について指摘させていただきます。ビザ、安全性、治安、衛生、そして居心地の良さが挙げられるでしょう。ただ、私と致しましては、インドサイドのプレゼンを聞き、観光客を守る事を制度化したりインフラを整備したりというその努力に感銘を受けています。コモンウェルス大会におきましても、インドチームの勝利を願っております。最後にこのスライドで、今回のシンポジウムに参加し、日本市場でインドへの観光促進に情熱を持って活動している旅行会社を示します。どうか、これらの会社から良いパートナーを探して下さい。ご静聴ありがとうございました。



This is the fourth time for me to come to India. I 'm very impressed that economic development has been so rapid. I think one of the most important reasons of such change is due to capital investment from foreign countries as well as the recognition of the "demand market" in India by foreign countries. It would be highly appreciated if you bear in mind the notion of foreign experts and foreign insights throughout my presentation.

I would like to talk about the slides from now.

JATA, established in 1959, is a non-profit travel trade organization authorized by the Japan Tourism Agency. The purpose is to contribute to development of the travel and tourism industry and improve the quality of services to consumers. JATA's major activities are shown on the screen. One of the typical examples is JATA World Tourism Congress and Travel Fair. Last year it was held in September and participated in by 151countries and 699 groups. This year we will have the same event from September 24th. As for the members of JATA, please see the screen. Overseas allied members are also included. If your company is not listed, please consider your participation .

(Slide8) Indian Buddhism Cultural influence on Japan is huge. It is said that the architecture of the famous three storied pagoda of Yakushiji-Temple in Nara where APEC Ministers' conference is to be held this year, has its origin in India.

(Slide9) Yoga Meditation has influenced Zazen Meditation, which is gaining popularity all over the world. (Slide10) Japanese "Curry Rice" originates from the "Indian Stew" in Great Britain. Not directly from India. These three pictures show us our cultural closeness between India and Japan.

(Slide11) According to tour planning staff, these three tourist areas, Sikkim, Ellora, Ajanta and Panaji are likely to become the most popular destinations as new tour products. Sikkim Area is famous for its summer holiday resorts, Ellora & Ajanta Areas are famous for their World Heritage, and Panaji (Goa) has high quality beach resorts. Additionally, 4 activities will be more and more popular in the future. The first activity is Bathing & Praying in the River Ganga, the second one is the experience of Ayurveda for women. This is very important not only for holistic aspects but for beauty, which should be shared by men and women. The third is excursions by a Luxurious Train such as the Maharaja Express and the fourth is the observation and participation in various famous local festivals.

(Slide14) Now let's see flight access. There are three carriers flying to & from India as the slide shows. Flight time between two countries is almost 8 hours, and the time difference is 3.5 hours. As of Jan. 2010, the number of flights & available seats is shown here (Slide15) , totally17 flights per week with 2,670 seats. I do recommend at least 7 flights at each airport are desirable.

(Slide16) Let's take Egypt, Turkey, and Vietnam for comparison to India. The number of direct flights and available seats per week from Japan, as of the coming April 2010, is shown in the table. Physical restraint at Narita will be relaxed from the end of March. Therefore, travel agents in Japan are developing new products with great expectation for the efforts by the air carriers to create new markets.

(Slide18) Then let's see the number of travelers from Japan to these 4 destinations. The comparison is from 2004 to 2007, for 4 consecutive years. The number of Japanese tourists to Vietnam has grown from 250,000 to more than 400,000 visitors. The other 3 countries have not recorded such quick growth in tourist flows. However, tourists to India are increasing gradually. Thinking of capacity of weekly aircraft-wise, and attractiveness-wise, we are encouraged to have very good prospects in India. At least 200,000 tourists to India more than Turkey should be expected in 2010.

(Slide19) The most effective way to attract tourists is "No Visa" requirement. Here is the example of Vietnam, which introduced No Visa in 2002. The result is an increase of the number of tourists from 204,000 in 2001 to 279,800 in 2002, around 37% increase. Of course the introduction of arrival visa is an important step, but it still has some inconvenience. So I'd sincerely like the Indian government to further relax the visa requirement for Japanese tourists.

(Slide21) Implementing a strategy to develop a new image of India among consumers is very important. In this point, we strongly advise you to promote Indian people's friendliness and hospitality on the Japanese market as well as the cultural influence and mysteriousness through a variety of media.

(Slide22, 23) Seeing the images in the slide, I was so impressed about resemblances between India and Japan. Here are some examples of successful PR. Croatia, Dubrovnik, the famous old town which is also world heritage is now very popular among Japanese which was not expected 4-5 years ago. This photo successfully created a fresh and clean image of Croatia among Japanese. The message of France is how close Japan and France are. This poster introduces 2 famous world heritage sites, Itsukushima Shrine in Japan and Mont Saint-Michel in France together instead of a traditional image like the Eifel Tower. 'Incredible India' are fairly good key words and logos. But unfortunately, it is not clear what is "Incredible", that kind of message is important. And the visual image is also important and especially approaching the female. Their perception is not so logical, just the image is important. So please search for the new picture with new angle from a new aspect.

(Slide24) To create a new image for India, there are some more areas that I have to talk about. The first is the northern part of India, like Darjeeling and the Pramaputra river cruise, which should be visited by Japanese in summer time.

The second is the southern part of India, which is famous for high quality resorts where, however, the accommodation is very reasonable during the low season and a luxurious train tour holds high potential for quality oriented wealthy Japanese.

Third, the marketing of Special Interest Tour is also very important. Their market size is not very big, and the price competition is not so intense. The valley of flowers, local culture, wildlife sanctuaries, fashionableness and variable shopping locations should be well promoted to tour operators. I am afraid those three photo images of those destinations are not so sophisticated and impressive.

Finally, I need to point out the issues to be solved. These are visa, safety, security, cleanness and comfort. And through the presentation by the Indian delegation, I was so impressed with their efforts to establish, or institutionalize the protection of tourists and infrastructure improvement. And I hope the Indian team will win a great victory at the Commonwealth Games 2010. In the end, I'd like to list up the participating Japanese travel agents to this symposium which have high enthusiasm to promote India in the Japanese market. So please search for good partners among those companies. Thank you very much for your attention.

Slide 1

社団法人日本旅行業協会 Japan Association of Travel Agents

もっと! 海外へ Visit World Campaign

Encouraging Tourism Exchange with India

Presented by Mr. Kosuke Shibata

President of Japan Association of Travel Agents (JATA)

Slide 2

Contents

Preface: What is JATA? & Introduction

1 Interests of Japanese Travelers & Indian Attractions

2 Important Flight & Access between Japan & India

3 Comparison of Direct Flights among Four Destinations

4 Proposals to Attract More Japanese Tourists

5 Proposals of New Products & Change of Image on India

Slide 3

What is JATA?

— Activities of JATA —

(1)Purpose: Non-profit travel trade organization

authorized by the commission of Japan Tourism Agency

for the purpose of contributing to the development of the travel and tourism industry and improve the quality of services to consumers

(2)History: Established in1959

Slide 4

(3)Activities (committees):

①Promotion of:

Outbound, Inbound, & Domestic Travels

②Examination, Training & Education

Fair Trade Practices

Consumer Claims Settlement

Consumer Consultation & Compensation

Slide 5

(3)Activities:

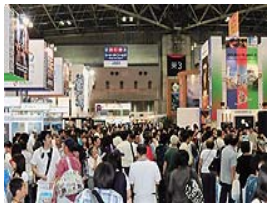
③JATA World Tourism Congress & Travel Fair

Date: 17 Sep 2009~ 20 Sep 2009

Participating Countries : From 151 countries

Participating No. of Groups: 699 Groups

No. of Clients: 110,784 guests



Slide 6

(4)Members, as of April 2009

Active members with voting rights	1,228
Associate members	667
Travel agency members in total	1,895
Domestic allied members	104
(India Tourism, Government of India)	
Overseas allied members	737

Slide 7

(4)Members, as of April 2009

Members from India (Alphabetical): 45 Travel Related Companies

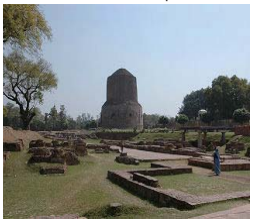
Adventure Asia, Alpine Travels & Tours Pvt. Ltd, Aman Travels Pvt. Ltd, Amber Tours Pvt.Ltd, Blue Bird Leisure & Holidays Limited, Caravan Travels, Compass India Inc.-The Hospitality Managers, Crowne Plaza Surya New Delhi, Decent Indo Tours Pvt. Ltd, Flywell Travels, Girikand Travels Pvt. Ltd, High Points (Expeditions & Tours), India Vision Tours & Travels, Indiana Travels (P) ltd, Indus Heritage (India) Pvt Ltd, Inpac Tours (p) Ltd, International Travel House Limited, J.N. Rao Travel Consultancy Services.P.L, KK Royal Hotel & Convention Centre, Kairs Tours and Travels, Lotus Trans Travel Pvt Ltd, M/S. Hill Tours, Namgyal Treks & Tours, New Indus International (India) Pvt. Ltd, Nu Travel Bureau, Pacific Classic Tours (India), Pick Wick Travels Private Limited, Pioneer Travels, Plan Indo Tours Pvt Ltd, Prudent Networks, Rama Tours & Travels Pvt. Ltd, Riemasala Pvt Ltd, Sejwal Holidays, Shashi Travels & Tours Pvt. Ltd, Skylink Travel Pvt. Ltd, Sunshine Tours, Swosti Travels & Exports Pvt Ltd, Tales from India Tours, Top Travel & Tours Pvt Ltd, Trade Wings Limited, Travel Corporation (India) Ltd, United Travel Service (International) Pvt. Ltd, Universal Travels & Allied Services, Vaishali Travel Service Pvt. Ltd, XEBEC INDIA TOURS & EXPORTS PRIVATE LIMITED

Slide 8

Introduction
Image of India-Japan

India **ARCHITECTURE** Japan

Dhamekh Stupa



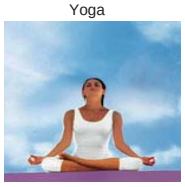
Yakushiji Temple (Three story Pagoda)

Slide9

Introduction
Image of India-Japan

MEDITATION

India
Yoga



Japan
Zazen

Slide10

Introduction
Image of India-Japan

CURRY

India

Japan

Japanese “Curry Rice” comes from “Indian Stew” in Great Britain,

Slide11

1-1 Interests of Japanese Travelers & Indian Attractions

New Attractive Destinations

Key words

Sikkim: Summer Holiday Resorts

Ellora, Ajanta: World Heritage Sites

Panaji (Goa): Southern part of India

Slide12

1-2 Interests of Japanese Travelers & Indian Attractions

Growing Popularity of Various Activities

Bathing & Praying in the River Gandhi

Aayurveda

Excursion by Luxurious Train

Local Festivals

Slide13

1-3 Interests of Japanese Travelers & Indian Attractions

New Attractive Destinations in India

Trekking & Highland Resorts

Ellora, World Heritage Sites

Ajanta, World Heritage

Panaji (Goa), Beach Resorts

Slide14

2-1 No. of Flights & Available seats Per Week between Japan & India

Air India (AI) NRT/DEL KIX/DEL

1-3

Japan Airlines (JL) NRT/DEL

All Nippon Airways (NH) NRT/BOM

Slide15

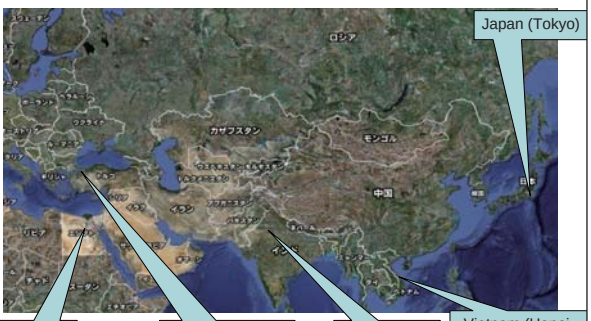
2-2 No. of Flights & Available Seats Per Week between Japan & India

As of Jan. 2010

Weekly		AI	JL	NH	Total
NRT/KIX~ BOM/DEL	FLT	7	3	0	10
	Seat	1,550	840	0	2,390
NRT~ BOM	FLT	0	0	7	7
	Seat	0	0	280	280
Total	FLT	7	3	7	17
	Seat	1,550	840	280	**2,670**

Slide16

3 Comparison of Four Destinations



Slide17

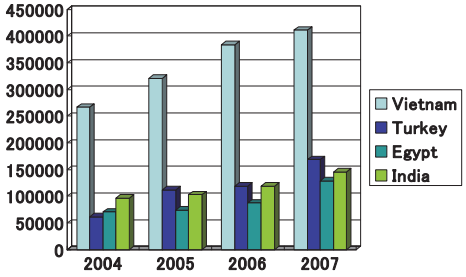
3-1 Comparison of Direct Flights to Four destinations from Japan, from Apr. 2010

Weekly	Vietnam	Turkey	Egypt	India
To	HAN/SGN	IST	CAI	DEL/BOM
No. of FLT	49	10	6	17
Seats	10,300	3,100	1,680	2,670

【Flights from Japan】
To Vietnam: Depart from NRT, NGO, KIX, FUK
To Turkey: Depart from NRT, KIX
To Egypt: Depart from NRT, KIX
To India: Depart from NRT, KIX

Slide18

3-2 Comparison of Four Countries in Japanese Outbound Travel Market



Slide19

4-1 Proposals to Attract More Japanese Tourists

- **Introduction of No Visa**
  Arrival visa is still inconvenient, because it takes long time at the immigration and it costs high ($60 instead of $20 in Japan)
  ∗Mongolia is planning to introduce No Visa in 2010.
  ∗Good result of No Visa in Vietnam in 2002

Japanese Tourists in 2001	204,000
Japanese Tourists in 2002	279,800

- **Two Months Interval requirement to Re-entry**
  Serious barrier to tourists who wish to visit India every month.
  (Introduced in Jan. 2010)

Slide20

4-2 Proposals to Attract More Japanese Tourists

・Strategy to develop new image of India

Pictures in Horyuji-Temple in Nara are believed to have been greatly influenced by the pictures of Ajanta.

Ajanta

Horyuji-Temple

Slide21

"Trivanga"
トリバンガ(三屈法)

Two sculptures of Buddha in Ajanta (Cave No 26)

Two sculptures of Buddha in Nara Yakushiji-Temple

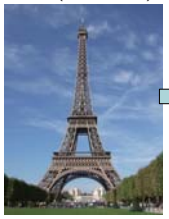
"Trivanga"
トリバンガ(三屈法)

Slide22

4-3 Proposals to Attract More Japanese Tourists

Croatia

France (Before 2009)



France (After 2009)

How close Japan & France are!

India

Slide23

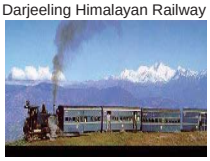
5-1 Proposals on New Products & Change of Image on India

① Promotion of the Northern part of India during summer season

Key words: Mountain Trekking, River Cruise

Darjeeling

Darjeeling Himalayan Railway



Pramaputra River Cruise

Slide24

5-2 Proposals for New Products & Change of the Image on India

② Promotion of high quality resorts especially during low season at reasonable prices

Southern part of India,
& Luxurious Train Journey

Taj Westend Hotel

Maharaja Express

Slide25

5-3

Proposals for New Products & Change of the Image on India

③ Promotion of Special Interest Tours (SIT)

Key words: The Valley of Flowers, Local Culture, & Safari, etc.

The Valley of Flowers

Local culture in the eastern part of India

Manas Wildlife Sanctuary

Slide26

6

Issues to be solved

Key words: Safety, Security, Cleanliness & Comfort

∗ Improvement of Infrastructure
∗ Punctuality of Public Transportation (Domestic Airlines, trains)

Slide27

Participating Japanese Travel Agents

- ANA Sales Co., Ltd
- Apex International Inc.
- Jalpak Co., Ltd
- JTB Corp.
- Kinki Nippon Tourist Co., Ltd
- Nippon Travel Agency
- Nishitetsu Travel Co.,Ltd
- NOE Corp.
- Toptour Corporation
- Yusen Travel Co., Ltd

観光ワークショップ：日本旅行業協会（JATA）と インドツアーオペレーター協会による進行

Workshop for Travel Industry, Presided over by JATA and IATO

開会挨拶

Exchange of Pleasantries

佐々木　隆　Mr. Takashi Sasaki
日本旅行業協会　副会長
Vice Chairman of JATA

アトール　ライ　Mr. Atul Rai
インドツアーオペレーター協会
名誉総合局長
Honorary Joint Secretary of IATO

「インドの観光促進」
Travel Promotion between India and Japan

佐　藤　　勉　　Mr. Tsutomu Sato
日本インド観光促進委員会　前委員長
Ex-Chairman of Japan India Tourism Promotion Committee (JITC)

1．日印関係の歴史

538　仏教伝来
752　菩提僊那、奈良東大寺で、大仏開眼供養、このとき,舞楽・伎楽が開催
音楽とともに琵琶など楽器が伝来。梵語が、「悉曇学」や「かな」の源泉
「金光明経」「大日経」にて、インドの神々（サラスヴァティ弁財天、ラクシュミ吉祥天、インドラ帝釈天、ブラフマ梵天、シヴァ大自在天）伝来
985　恵心僧都源信『往生要集』　「行と解脱」を「自業自得」表現
15ｃ　11年にわたる応仁の乱の後力をつけた京都の商人による祇園祭（祇園精舎，ジェータ・ヴァナ）と山鉾巡業、鉾を飾るつづれ織カーペットは、ムガル帝国時代ラホール産インド更紗も伝来
16ｃ　七福神（恵比須・大黒天マハカーラ・弁財天サラスヴァティ・毘沙門天クベーラーインド来、室町末期までに確定。布袋・寿老人・福禄寿ー中国来）、江戸時代流行
1582　天正少年使節団、欧州へ向かう途中、ゴアに立ち寄り。
1877　銀座風月堂の洋食レストラン８銭（もりそば１銭）で「日本式カレー」提供
1901　岡倉天心インド滞在、ヴィヴェーカナンダ、タゴールと親交
1905　日露戦争講和条約が、植民地化のインドに、大きな衝撃。
1916　R.タゴール1929まで５回来日、日本への関心深く列強諸国の侵略的国家主義批判
1927　新宿中村屋、R.B.ボース　「インド式カレー（80銭）」
1936　野生司香雪、サルナート根本香室精舎の全壁面に30の画題を描き終える
1944　N.S.C.ボース インド国民軍　印パール作戦
1946　極東軍事裁判、ラダ・ビノド・パール判事
1949　インド首相ネルー、愛娘インデイラ名の象を上野動物園に進呈
1952　日印平和条約
1957　日印文化協定・首相相互訪問
1958　ODA第一号
1959　皇太子と妃殿下、訪印
1982　スズキ㈱マルチ・ウドヨグ社と合弁事業開始
1991　インド外貨危機、湾岸戦争とソ連崩壊ー日本政府4.5億弗、邦銀20億弗供与
1993　遠藤周作『深い河』　輪廻・因果応報を再確認
2000　森首相　訪印
2005　マンモハン・シン首相ー小泉首相、共同声明「日印グローバル・パートナーシップ」
2007　日印文化協定締結50周年ーインド友情年
2008　マンモハン・シン首相、訪日
2009　鳩山首相、訪印

日印交流の歴史は、いうまでもなく、538年の大乗仏教伝来に始まる。中国、朝鮮半島を経由してインド文化が流れ込む。インド由来の数々の神様、梵語に起源をもつ日本語「かな」、絨毯やキャラコ・更紗の織物から、「因果応報、生まれかわり」といった考え方が、日本人の思惟方法まで大きく影響をおよぼした。古代の日本人は、当時のインドを知りえず、「天竺」と想像していたのであろう。文化は、一方的に、インドから日本へと流れ、宗教・倫理的な精神文化に重きが置かれた。

近代世界に登場してきた極東の小国日本とロシアとの日露戦争は、長い植民地支配に呻吟していたインドに強い衝撃を与えた。第二次世界大戦は、N.S.C.ボースとR.B.ボースを通して日印関係はあったが、戦後は、1947年に独立を勝ち取ったインドに対して、日本は、敗戦で1945年から1952年まで主権を喪失することとなった。1952年にサンフランシスコ講和条約に続きインドと日印平和条約が締結されたが、この6条で賠償放棄が明記され、当時の日本人を大いに感動させた。

1950年代から日本は、奇跡的な高度成長を遂げ、世界2位の経済大国になった。その過程で、日本の技術、投資、物質、経営と技術者といった経済中心の文化が、一方的にインドへと流れていった。しかし、世界は冷戦構造の中で、70年代以降ソ連に大きく傾斜していったインドに対し、米国一辺倒の日本、互いに対立するいかなる理由もなかったにもかかわらず、両者の関係は約30年間疎遠になってしまった。

20世紀の末から世界の注目を集めだし、2003年にはBRICSの1つとして、インドが登場してきた。外交では、日印は、戦略パートナーの関係になった。2007年に安部首相が訪印し、両国首相の相互訪問が決まり、2008年マンモハン・シン首相、2009年鳩山首相が相互訪問した。経済では、2009年にインドは中国を抜いて、日本からの最大の投資国になり、両国の貿易額も過去数年の倍になり、そしてODAは過去5年間で最大となった。

2．日印旅行実態

単位万人

年　度	訪日インド人数	訪印日本人数
2004	5.3	9.6
2005	5.8	10.3
2006	6.2	11.9
2007	6.7	14.5
2008	6.7	15.1

2008		訪日外国人数		海外を訪れる日本人数	
総　数			835		1598
内訳（順位）	1.	韓国	238	中国	344
	2.	台湾	139	アメリカ	324
	3.	中国	100	韓国	237
	4.	アメリカ	76	香港	132
	5.	香港	55	タイ	114
	—	インド	6.7	インド	15.1

国際観光白書2009（JNTO）

外交・経済面で相互関係が進展している半面、人と人との交流はまだまだである。2008年の訪日インド人数は、対前年0.4%減の67,323人となり、世界的景気停滞の影響で、1994年以来順調に伸びてきていたが、14年ぶりに減少した。訪日外国人総数835万人で、①韓国2,382,397人②台湾1,390,228人③中国1,000,416人④アメリカ768,345人⑤香港550,190人である。

一方、訪印日本人数は、2005年に10万人を超えてから順調に推移、2008年に151,000人であるが、同年インドを訪れた外国人537万人中2.8%でしかない。また、外国に行った日本人総数は1,598万人で、①中国3,446,117人②アメリカ3,249,578人③韓国2,378,102人④香港1,324,797人⑤タイ1,146,633人である。

中国・韓国・東南アジアの旅行者は日本の現代ポップ音楽が好きだが、インド人は、日本の現代ポップ音楽・アニメ・日本食にまだ関心が薄く、日本の自動車などの産業面に関心が向いているようだ。同様に、メディアがもっと取り上げれば、日本人もインドの医療・映画・インド音楽に関心を持つだろう。また、留学生に至っては、500人規模で、バングラデッシュの半分以下、中国の8万人と比べたらいかに少ないかがわかる。インド人家族が日本に住むようになれば、留学生も増えるかもしれない。

この人と人との交流の少なさは、日本人の心の中に、インドに対する固定観念が植えつけられていると、私は考える。この固定観念はインドをよく知らないことから起こり、よく知らないままきているのも、冷戦構造時代の約30年間にわたり、相互に没交渉であったことに由来すると思われる。

３．インド政府観光局と日印観光促進委員会

2008. ４ .17　日本インド観光促進委員会発足。UNWTOやインド政府観光局と共同
2008.11.20　インド政府観光局広告バス
2009. ４ . ８　インド政府観光局主催ヴェロタクシー出発式
　　９ .29　日本インド観光促進委員会、JATAの海外旅行委員会の下部機関になる
　　11.30　インド政府観光局、インクレディブル・インディア広告、大阪
　　12.07　インド大使カップ、ゴルフトーナメント
　　12.11　東京銀座で、日本旅行者向けにセミナー開催
2010. １ .22　インド政府観光局と菜食料理の実験
　　２ .17　JATA日印観光促進委員会からインド政府観光局へ感謝状贈呈。
　　２ .22　デリーで観光促進シンポジウム開催

だが、少しずつ改善の方向が見える。IT産業のおかげで、在日インド人が１万５千人を超えるようになって、日本人のインド人を見る目が変わってきた。東京・西葛西のインド人街が、メディアに取り上げられ、イメージチェンジのためやってきた、「ナマステ・インディア」は10万人の日本人が集まり、旅行関係者による築地本願寺の「マハラジャ・インディア」も成功を収めた。

４．これからのツアープラン

インドは、仏教など世界遺産、アユールヴェーダとヨーガ、世界最高水準の医薬、IT、バイオなど豊富な観光資源を有し、最も魅力的な観光地である。日本にとっても当然そうだが、それ以上に日本とインドは、文化交流の歴史を古く持つ。古代インドのものの考え方が日本に流れ込み、われわれ日本人の思惟方法に大きな影響を与えてきたので、精神面・感情面でインドと日本の共通点がみられる。であれば、精神世界の哲学や多神教をも誇る長い歴史があることも改めて、認識する必要がある。新聞によれば、12年に一度のクンブメーラー祭りには、1,300万人の形而上世界で思索している遊行者が参加するという。よく考えれば、彼らは失業者ということもできる。大勢の失業者をかかえても、遊行者の生き方をインド人は認める哲学を持っている。この精神世界の哲学こそ、インド人を物質的な経済活動に駆り立てる原動力になっているとも言えよう。現在のIT革命のヴァーチャルな思索が昔のヴェーダ時代の形而上的な思索にさかのぼる。私は、インドの観光・旅行を計画する時、この哲学的な特徴を必ず考えることとしたい。最後に、この機会、この会議が、日印の旅行促進の大きな一歩になると確信する。

1.India-Japan cultural exchange history

538 Buddhism reached from India to Japan through Korean Peninsula in 1000 years after its rise.

752 A grand eye opening ceremony of Great Buddha was carried out in Todaiji Temple by Bodhisena. Emperor Shomu invited him to the dedication of ceremony that was called "kaigen" which means opening eye by the painting black ink on the pupil of the eye of the statue, which symbolized the putting of the soul in the statue. On this time Indian music became to the traditional Japanese court music accompanied by dancing and musical instruments like "Biwa" came to Japan. Sanskrit was made to Japanese character "Kana". So many Gods had come to Japan from ancient India through some kinds of Buddhism sutras. Sarasvati, Laksmi, Indra, Siva, and Visnu.

985 "Ojoyoshu" or Collection of Phrases Essential to Birth in the Pure Land Paradise written by Genshin. The Japanese expression "jigojitoku" is based upon the Indian ideas of karman and samsara. In Japan the idea of karman and samsara has long influenced Japanese minds widely and deeply.

15C "Gion Matsuri (Gion Festival)"was carried forward by Kyoto traders that gained stock with big power after 11 years war "Oninnorann". The large floats called "Hoko and Yama" which was made and decorated gracefully by townspeople, paraded through the street of the city. A carpet that covers the front portion of Hoko is said to be Lahore made, one from early 17th Century Mughal dynasty of India of early times. And "Indo sarasa (Indian chintz)" came to Japan.

16C The Seven Deities of Good Fortune appeared on the stage in Muromachi period. At least 3 out of 7 deities are Mahakala, Vaisravana, Sarasvati who are originated in Ancient India.

1582 "Tennshou Boys Mission To Rome" dropped in for a short visit in Goa.

1877 "Hugetsudou" restaurant offered "Japanese style Curry and Rice" at 8 sen, "Japanese type curry and Rice" was imported through U.K. after the Meiji Restoration period.

1901 Okakura Tenshin went to India and made friends each other with Rabindranath Tagore and Swami Vivekananda.

1905 Russo-Japanese War Peace Treaty impacted the colonized India at that time.

1916 R.Tagore was deeply interested in Japan appearance and criticized strongly to the aggressive nationalism of the great powers.

1927 The owner of "Nakamuraya" restaurant protected Rash Behari Bose whose wife was the owner's daughter and R. B. Bose produced typical "Indian type Curry and Rice". Nakamuraya" offered it at 80 sen.

1936 Kosetsu Nousu painted 30 pieces of Buddha's Life pictures in Mulgandha Kuti Vihar in Sarnath.

1944 Netaji Subhas Chandra Bose participated the Imphal operation with the Japanese Army.

1946 Judge Radhabinod Pal in The International Tribunal for the Far East made an impression on the Japanese at that time.

1949 The prime minister Jawaharlal Nehru presented Japanese children the elephant named his daughter "Indera"

1952 India-Japan peace treaty.

1957 The cultural exchange agreement between India and Japan. Cross-visitng each other between both Prime ministers.

1959 His Highness the Crown Prince and Princess (The Emperor and Empress of now) visited to India.

1982 Suzuki Motor Corporation started cooperation with Maruti Udyog Limited.

1991 India in the crisis of short of foreign currency reserves. Japan offered 450 million dollars on the government basis and 200 million dollars in private basis.

1993 Shusaku Endo wrote "The Deep River" which means River Ganga focused on Karman and Samsara.

2000 Prime Minister Mori visited India.

2005 Prime ministers Manmohan Singh and Junichiro Koizumi declared the joint statement.

2007 India-Japan Friendship Year

2008 Prime minister Manmohan Singh visited to Japan

2009 Prime minister Hatoyama visited to India

Nevertheless to say, the relationship between two countries started at the year 538 when Mahayana of Buddhism reached to Japan. Indian Culture had been following to Japan through the Silk Road, China and Korean Peninsula. In addition to many Deities of India, origin of the Japanese syllabic characters called kana, the carpet and cotton fabrics named of "Calico and Sarasa", the idea of "karman and samsara" had influenced Japanese way of thought. The ancient Japanese people seemed not to have known the India of that time and seemed only to image the concept of India as "Tenjiku". I think that India gave more than it received from Japan and it had an overload of religious and ethical elements in the standpoint of view of the flow of cultural influence.

In modern days, Japan staged on the world politics first and The Peace Treaty of 1905 between Russia and Japan made the impact to India. After the world War Ⅱ in which the relations between Two countries connected each other through two Boses, India had gotten Independence to establish the sovereignty and Japan had lost the sovereignty till the San Francisco Peace Treaty of 1952. Continuously Japan signed a peace treaty with India in 1952 and in article 6, it was clearly mentioned that India waived all reparation claims against Japan. This gesture moved the Japanese people of those days greatly.

Japan had a miracle rapid progress in its own economy to get the second largest country all over the world from 1950's. I think that Japanese culture had flowed reversely to India in the economy elements of technology, investment, goods, and Japanese engineers and managers. On the same time Cold War from 1950's to 1980's separated each other, on one hand India was supported by Soviet-Block and on the other hand Japan was included in U.S. Block. Both countries had not closely kept in touch with each other in these 30 years.

From the end of this previous century, India has been focused as the top-runner to be all over the world as one of BRICS in 2003. India-Japan Strategic Partnership is well-appreciated in both countries. When Prime Minister Abe visited India in 2007, it was agreed that Prime ministers of Japan and India would visit each other every year. In 2008 Prime Minister Singh visited Japan, followed by the visit of Prime Minister Hatoyama to India in the end of 2009.

The relationship between the two countries is also strengthening on economic and business front. India became the largest recipient of Japanese FDI (Foreign Direct Investment) in FY 2009, surpassing that to China. India is now ranked as the most important country for long-term investment destination for Japanese companies. Bilateral trade between India and Japan has also increased. The total volume of the India-Japan trade has grown by more than twice in the past few years. India is also the largest recipient of Japanese ODA in the past five years.

(10 thousand)

year	From India to Japan	From Japan to India
2004	5.3	9.6
2005	5.8	10.3
2006	6.2	11.9
2007	6.7	14.5
2008	6.7	15.1

2008		From overseas to Japan		From Japan to overseas	
Total			835		1598
	1.	Korea	238	China	344
	2.	Taiwan	139	U.S.A.	324
	3.	China	100	Korea	237
	4.	U.S.A.	76	HongKong	132
	5.	HongKong	55	Thailand	114
	—	India	6.7	India	15.1

(JNTO 2009)

2. Travelers from India to Japan and Travelers from Japan to India

Despite the progress in diplomacy and economy, people to people contact is sadly missing. Numbers of the passengers from India to Japan in 2008 were 67,000 decreased by 0.4% compared to the previous year and decreased for the first time in 14 years because of the worldwide business stagnation. Total passengers from overseas to Japan were 8350,000 (1.Korea 2.Taiwan 3.China 4.U.S.A. 5.Hong Kong).

On the other, numbers of the passengers from Japan to India in 2008 were 151,000 having increased from 2005 which went over 100,000 lines, but it was only 2.8% out of the 5,370,000 of all passengers to India. All Japanese to overseas were 15,987,250 (1.China 2.U.S.A. 3.Korea 4.Hong Kong 5.Thailand).

One of the attractions of Japan for tourists from China, Korea and Southeast Asia is our modern pop culture. However, Japanese pop song, animation, and cuisine have not been appreciated well by ordinal Indians yet. One of the reasons is the concentration of Japanese business in automobile and related industries, and very few in culture-related industries. Similarly, more and more Japanese can visit India to enjoy such attraction as medical treatment, cinema and modern music, had they been more actively promoted by Japanese media. Student exchange between India and Japan is also at a disappointing level. The number of Indian students in Japan has been stagnating in the range of five hundred, which is less than half of the students from Bangladesh to Japan. There is s sharp contrast with Chinese students, whose number

is close to 80 thousand. Had more Indian families visited Japan, more and more young Indians could have wanted to come to Japan as an exchange students. I think that the relatively small numbers of travelers from Japan to India are regrettably due to misconception about India in the mind of the Japanese people. This misconception was derived from lack of mutual understanding, and this lack was derived from little communication in the past several decades of the Cold War period.

3.Mr. M. SADANA Regional Director, East Asia Region, India Tourism And JATA India-Japan Tourism Promotion Committee

2008.04.17 India-Japan Travel promotion was founded.
Cooperation with the East Asia Region of India Tourism and UNWTO
2008.11.20 Wrapping Bus in Tokyo
2009.04.08 Velo-Taxi starting Ceremony sponsored by India Tourism
09.29 The subordinate of JATA Overseas Travel Committee
11.30 The advertisement of Incredible India in Osaka
12.07 Incredible India Golf Tournament 2009, Indian ambassador's Cup
12.11 The Seminar for Travel Agents of Japan in Tokyo
2010.01.22 Experiment of vegetarian food for foreigners
02.17 IJTPC offered the award to India Tourism
02.22 India-Japan Travel Promotion Symposium in Delhi

There are some progresses in people-to-people exchanges. For example, thanks to the IT industry, the number of Indians in Japan has exceeded 15 thousand. This has certainly changed the Japanese perception to Indian people. In recent years, quite a few media reports covered a "Little India" in Nishi-Kasai, Tokyo. With the changing image of India, "Namaste India", an India festival in Japan organized every year, attracted close to one lakh Japanese visitors. Last year, a similar festival called "Maharaja India" was additionally organized with a huge success at Tsukiji Honganji Temple in Tokyo. Remarkably this festival was organized by Indian and Japanese tourist companies and related bodies.

4. The new tour planning

India being a Tourism resources and abundant world heritage, including Buddhist monuments, Ayurveda and Yoga, top-notch medical care and pharmacy, IT technology, Biotechnology, could become one of the most attractive destinations for us Japanese also. According to the history of the cultural exchange between two countries , we Japanese have been effected long by the way to think in the ancient India. So we have almost same mentality and sensibility between us. The fact that India is proud of Philosophy and multi-Deities religion in her long history, should be emphasized much more again. According to newspaper 13 million Sadhus who always think in the metaphysical world, participate in Kunbumera Festival every 12 year, and they are also jobless people from standpoint of view of economy. Even if so many people have no jobs, almost all Indian people have the "philosophy" to recognize the way of life of Sadhus. I believe that this "philosophy" drives Indians to be at the leading edge of technology business. IT revolution of virtual thinking comes back 5,000 years to the metaphysical thought of the Vedic period. I am interested in the long long continuity to think in India ,and I would like to consider this "philosophy" in the case of planning tours to India.

Given the background, it is high time to promote India-Japan tourism in a big way. Like Japanese business communities have sent numerous delegations and missions to India in the past years, the tourist industry will also walk on the same road between India and Japan. I am convinced that this conference will become a breakthrough in the tourism between India and Japan.

ラシュミ・ヴァルマ女史　Ms. Rashmi Verma, Principal

ビハール州　観光主席次官
Secretary – Tourism, Government of Bihar.

ビハール州の仏教巡礼回路
Development of Buddhist Circuit in Bihar
(Presentation based on development and promotion of Buddhist Circuit in Bihar)

私は仏教発祥の地についてお話しします。ビハール州の我々の使命は特に仏教巡礼回路に沿った観光地のサービスの質を上げ、観光全体の環境をしっかり整備して行くことです。我々は去年、全ての関係団体と総合的な計画を立て、既にさまざまなセクターで改善を進めていますが、もちろんこのような努力は今後も続けていきます。

I would like to talk about the land of origin of Buddhism. Our mission is to establish quality services and enhance the overall tourism environment, especially focusing on the Buddihsm Circuit. We made a comprehensive plan to implement last year with many stakeholders. We are succeeding in improving many areas so far and we promise to go forward.

ヤェシュ・ランジャン氏　Mr. Jayesh Ranjan

アンドラ　プラデシュ州　観光次官
Secretary – Tourism, Government of Andhra Pradesh.

日本人旅行者必見の観光目的地
Andhra Pradesh - A Must See Destination for Japanese Tourists.
(Presentation based on tourist attractions in general and places of Buddhist interest in particular in the southern state of Andhra Pradesh)

仏教は我が州で発展しましたので、歴史的にも我が州には多くの仏教哲学者が出ていますし、多くの世界遺産があります。全部で152の仏教遺跡があり、そのうちの22が観光地として開発されていますが、それにはインド政府と日本からの財政支援のお陰です。アンドラ・プラデシュ州には国内の観光客がインド中で一番多く訪れ、世界の５大観光地の一つになっています。仏教だけではなくハイドロバードのような近代都市も人々を惹きつけます。

Buddhism was developed in our state, so historically we have had many famous Buddhism philosophers and we have many heritage sites, too. There are 152 Buddhism sites in our state and we have been promoting 22 sites among them with the help of the national government and Japanese financial assistance. Our state is visited by the largest number of domestic visitors and it's one of the top 5 tourism sites globally. We not only have Buddhist sites, but we also have many other attractions in the very modern city like Hyderabad.

ナリン・シンハル氏　Dr. Nalin Singhal

インド鉄道ケータリング・観光会社取締役
Director (Tourism), Indian Railways Catering and Tourism Corporation.

仏教遺跡巡り列車とマハラジャエクスプレス
“Mahaparinivana Buddhist Train and Maharajas’ Express ”
(Presentation on Special Buddhist Train and on Luxury travel by Maharajas’ Express)

インドの鉄道は世界でも３番目に大きな規模のネットワークを誇ります。鉄道にはさまざまな産業が関わっており、その中には仕出し屋や旅行会社も含まれています。我々の提供するサービスはさまざまで、値打ちなものは国内の旅行者向けです。仏教巡礼回路の特別列車が2007年から開始されました。その他にも富裕層に向けてのマハラジャエクスプレスのような豪華なツアーのような、新しいサービスも開始して参ります。

The Indian railway is the third largest rail network in the world. It is related to many industries such as catering and travel agencies. We have various products, such as budget products for domestic users. A special Buddhism Circuit train started from 2007. We are going to have new tourism products such as the luxurious Maharajas’ Express train tour for wealthy customers.

タンベール・ジェーハン女史　Ms. Tanveer Jehan

ジャム・カシミール州　観光次官
Secretary Tourism, Government of Jammu & Kashmir.

ジャムとカシミール－地上の楽園
“Jammu & Kashmir – A Paradise on Earth”
(Presentation on tourist attractions in the Himalayan mountains of Jammu and Kashmir)

ジャム・カシミール州はヒマラヤ山脈にあり、３つの突出した観光地でもあります。観光の目玉は盛りだくさんで、世界で最高のスキー場もあります。宿泊施設もかなり充実してきました。世界で最も美しく、安全でもある我が州に是非ともおいで下さい。

Jammu & Kashmir is in Himalayan mountains and 3 distinguish destinations. We have so many tourism atrractions including skiing best slope in the world. Accomodation facilities have been largely improved. We would like you to visit our state deifinitely because it’s the most beautiful and very safe land in the world.

パダムジェート　シン　サンデュー　Mr. Padamjeet Singh Sandhu

インドプロゴルフ協会部長
Director (Sales and Marketing), Professional Golf Tour of India, New Delhi.

インド－ゴルフのデスティネーション
“India- A golfing Destination”
(Presentation on Golfing opportunities in India)

日本にとってはゴルフは単にスポーツではなく、既に文化の一部ですね。私はインドでのゴルフにおけるいくつかの例をお見せします。我が国には既にゴルファーを迎える十分なインフラもあります。また、我々は新たに最新の設備を備えて設計された美しいゴルフコースをインド中に増設しております。是非インドでゴルフをお楽しみ下さい。

For Japan, golf is not only sport but already a part of its culture. I would like to tell you some of our showcases for golfing in India. We have enough infrastructure to welcome golfers and we have been increasing beautiful and newly designed golf coureses with sophisticated facilities throughout India. Please enjoy golfing in India.

Ｑ１．シッキムやダージリンのどんなところが日本の観光客を惹きつけているのか？具体的な理由はあるのか？
Ａ．（柴田氏）調査結果でそれらの地が人気になってくるとわかった。ただ、他の観光地もそうなる可能性はある。

Q1. What points of Sikkim or Darjeeling can attract Japanese tourists? Are there any specific reasons?
A. (Mr. Shibata) The result of the survey showed that those areas would be popular. But other areas have potential, too.

Ｑ２．レジャー、文化、冒険の旅、これらの中でどれが一番成長しそうなのか？
Ａ．活動を伴う観光が一番伸びている。

Q2. Which segment is the fastest growing; leisure, culture or adventure?
A. Activities related to tourism are growing very fast.

Ｑ３．年齢的に考えると、その傾向は？
Ａ．若い人達は不景気の悪影響を受けているが、中高年は豪華な旅を好む傾向にある。

Q3. What are Japanese travelers' trends depending on age bracket?
A. Young people are suffering from economic stagnation but elderly people have a tendency to enjoy luxurious tours.

Ｑ４．仏教関連の旅行者の数が減っているのは何故か？
Ａ．若者は仏教には興味が無いため。だからインドにおける仏教にイメージを刷新して欲しい。

Q4. Buddhism related tourist numbers have been declining. Why?
A. Young people are not interested in Buddhism, so I would like you to renovate the Buddhism image in India.

Ｑ５．（日本人ジャーナリストから）インドへのジャーナリストビザの取得はとても難しい。その緩和を希望する。
Ａ．（チャトルベディ氏）将来的に改善して行きたい。

Q5. (From a Japanese journalist) Journalist visa is very difficult to get. I hope it will be relaxed.
A. (Mr. Chaturvedi) We will try to improve this issue in the future.

Ｑ６．（日本人から）「インクレディブルインディア」という表現の中での一番のメッセージは何か？
Ａ．最初は世界に向けてインドのブランド的イメージを打ち出したかった。今回のような情報交換できるイベントのお陰で我々は多くを学び、今後はより具体的な戦略を立てる事ができる。そうすれば、我々のメッセージをもっとはっきりと伝える事ができるようになるだろう。

Q6 (From Japanese) What are the most important messages in "Incredible India"?
A. First we wanted to create a brand image of India throughout the world. Thanks to this kind of information exchange event, we can learn a lot and make more specific strategies, so we will make this point more clear.

Ｑ７．インド人が日本を訪れる時にはどこが良い観光地かを教えて欲しい。
Ａ．（柴田氏）東京、北海道、京都、広島などもとても良いが、中央の山間部もすばらしい。また、高品質でお値打ちのおみやげは日本中で手に入る。

Q7. Please let us know popular tourism sites in Japan for Indian tourists.
A. (Mr. Shibata) Tokyo, Hokkaido, Kyoto and Hiroshima are very good as well as the central mountain areas. Also, you can find quality-made and reasonably priced souvenirs all around Japan.

Ｑ８．（JTB）マハラジャエクスプレスのチャーター利用は可能か？ゴルフツアーでティータイムは取れるのか？
Ａ．（シンハル氏　インド鉄道ケータリング・観光会社）チャーター利用は可能。フル操業は2010年の10月より。
Ａ．（サンデュー氏　インド・プロゴルフ協会部長）ティータイムは２、３日前の連絡があれば基本的には大丈夫ではあるが、それは各コースによる。

Q8. (From JTB) Can Maharajas' Express be chartered for a special package tour? Is tee time possible in golfing in India?
A. (Dr. Singhal, Indian Railways Catering and Tourism Corporation) Yes, charter is possible. Full-fledged operations will start in October 2010.
A. (Mr.Padamjeet Singh Sandhu, Professional Tour Golf of India) Getting a tee time is usually possible with two or three days notice, but that depends on each course.

チャトルベディ氏によるまとめ
SUMMING UP OF WORKSHOP BY MR. DEVESH CHATURVEDI

チャトルベディ氏によりシンポジウム、ワークショップの的確な総括がなされた。その主な内容はビザへの要求事項、新たな観光地について、などであった。また彼はこのような情報交換のできる機会を通して、今後も２国間の関係が深まる事への期待を述べた。最後にこのシンポジウム開催に係わった全ての関係者に感謝の言葉を送った。

Mr. Chaturvedi summarized the symposium and the workshop very appropriately. Major points were about visas, new tourism spots and so on. He hoped to deepen the relationship between the two countries by promoting this kind of information exchange opportunity. Lastly he extended his gratitude to all the individuals and groups who were involved in this event.

シンポジウムを終えて
（UNWTOアジア太平洋センター・㈶アジア太平洋観光交流センター（APTEC））
REVIEW OF THE SYMPOSIUM BY THE UNWTO REGIONAL SUPPORT OFFICE FOR ASIA AND THE PACIFIC/ASIA-PACIFIC TOURISM EXCHANGE CENTER (APTEC)

南アジアの大国インドは、いわゆるBRICSの一角を占める、既に発展途上段階を終えて力強く前進している国であり、南アジア、世界において政治・経済両面で大きな影響力を発揮しているが、その広大な地域に存する観光資源力はいまだ十分に世界の観光マーケットに活用されていない。

我々UNWTOアジア太平洋センターとその支援組織APTECは、この多様な自然、文化的豊穣に恵まれたインドと日本の観光交流を増進させることは、両国間の経済交流発展の一翼を担うのみならず、とりわけ多くの日本人観光客がその安全な旅行を担保しつつ、インドを訪れることによって、そのインド観光関連産業への日本人観光支出投下による直接的、間接的経済効果、雇用機会の創出・増大により、社会的安定を醸成し、両国の友好親善、相互理解を促進する最も有効な手段のひとつになると考え、インドの首都ニューデリーで、両国の持続的観光発展のあり方を、両国旅行業界関係者によって提言、議論し、今後の緊密な関係を構築するために、インド観光省、日本国観光庁とともに観光交流促進シンポジウムを主催した。

このシンポジウム開催、成功は、世界の経済不況下、また2008年末インド一部地域で発生したテロなどの困難な状況を乗り越え、日本人観光客を歓迎し、その増大の期待を維持してきたインド観光省を始め、インド側観光業界の全面的賛同・協力と、今後、インドは日本人にとって大きな伸長を予感させる観光目的地国として、インド観光を推進しようという強い意志を持ち、多忙な中で活動してきた日本旅行業協会（JATA）の役員、会員の皆様の熱意無しには実現できなかったものである。関係したすべての方々の努力に敬意を表したい。またなによりも、本事業の趣旨を理解いただき、財政的支援を提供していただいた日本財団に深甚の謝意を表するものである。

After the Symposium

India, one of the BRICs is a large country in southern Asia and has already shown its robust economic power as it exits its developing stages. Though it is influencing not only southern Asia but also the world at large politically and economically, its tourism resources within its borders have not been fully utilized in the global tourism market.

We, the UNWTO regional support office for Asia and Pacific and its supporting organization APTEC, think that promoting tourism between Japan and India, which has deep diversified nature and culture, will encourage economic exchange between the two countries. Specifically, it is expected that many more Japanese will be able to travel in India safely, which will create direct and indirect economic effects in the Indian tourism related industries, such as creating new and more diversified jobs. We think such development should be one of the most efficient methods to bring about social stability in India, encourage friendship and goodwill, and deepen mutual understanding between the two countries. Therefore, we held the " Symposium encouraging tourism exchange between India and Japan" in New Delhi. It was joined by Ministry of Tourism, India and the Japanese Tourism Agency so that both countries' tourism related people can discuss and propose ways for sustainable tourism development and to establish a close relationship between the two countries for the future.

This symposium was held successfully thanks to Ministry of Tourism India, Indian tourism industry, directors and members of JATA. India overcame various difficulties such as the global economic slowdown and terrorism in a part of India at the end of 2008. It kept welcoming Japanese tourists with expectations to increase its numbers patiently. The Indian tourism industry agreed and cooperated with us in full. As for Japanese side, directors and members of JATA had a strong intention to promote tourism in India while expecting that India would grow as a tourist destination for Japanese in the future, and they worked hard amid their tight schedule. Without the enthusiasm of all people involved, we could not have realized this symposium.

We would like to extend my sincere gratitude to all of those who supported this symposium. Above all, we would like to extend a special thanks to The Nippon Foundation for understanding the purpose of this project and offering financial support.

旅行関連業界向けスタディツアー　2010年2月23日

Technical Tour for Travel Industries and related persons organized by India Side on Feb.23,2010

○タージマハル・アグラツアー

Taji Mahal・Agra Tour

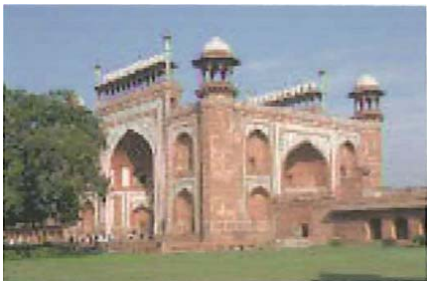
貼り出された座席予約表の確認

SHADABDI EXPRESS機関車

車内サービス員の服装

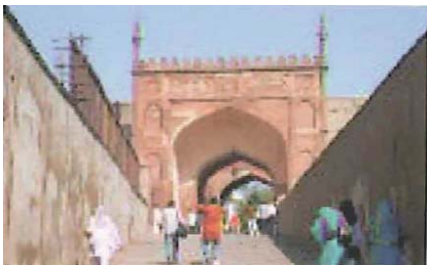
アグラ駅

タージマハル



タージマハル正門

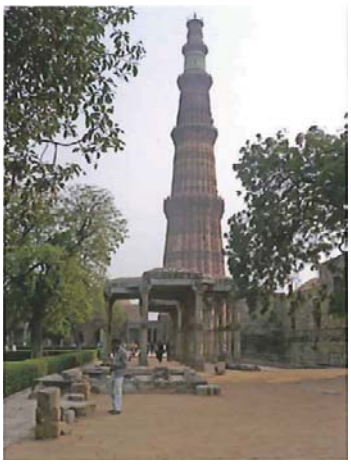
乗合タクシー



アグラ城

○デリー市内ツアー

Delhi City Tour



クトウブ・ミナール

インド門

UNWTO・OMT・ЮНВТО

世界観光機関（UNWTO）アジア太平洋センター

UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific

財団法人　アジア太平洋観光交流センター（APTEC）

Asia-Pacific Tourism Exchange Center（APTEC）

ありがとう競艇